

# 全国ルール統一研修会 (2025年)



期 日：2025年2月8日（土）

場 所：パナソニックリゾート大阪 / オンライン

主 催：（公社）日本ホッケー協会 事業本部競技運営部

共 催：（一社）ホッケージャパンリーグ



**競技強化支援事業**

独立行政法人日本スポーツ振興センター



# 目次

1	開催要項
2	日 程
3	参加者一覧
4	競 技 部
21	アンチドーピング・ インテグリティー
61	審 判 部
104	2025 国内競技会
105	質問要望事項に関する 回答

2024年度 ルール研修会開催要項  
〔2025年度に向けてのルール研修会〕

- 1 目 的 2025年度の日本ホッケー協会主催・共催大会、ホッケージャパンリーグ、地方大会（予選会を含む）が、スムーズに運営され、ホッケー競技が益々普及発展していくために、競技規則、競技運営規程の正しい理解とその解釈について統一を図る。
- 2 主 催 公益社団法人日本ホッケー協会 競技運営部会／一般社団法人ホッケージャパンリーグ
- 3 参加対象 各ブロック競技長・審判長/各関係団体競技規則・審判担当(1名必須・兼務可)/2024年度ホッケージャパンリーグ加盟チーム(2名まで可)/A級公認審判員(50歳未満)/TD・ATD・UM(2024年度日本協会主催大会)/強化育成本部男女代表者及び年代別カテゴリー代表者(1名)/競技運営部部員/競技運営部長推薦者  
※各ブロック競技長・審判長の代理者を出席させる場合は、必ず伝達講習を行える人材であること。
- 4 講 師 競技運営部会【 審判部・競技部・総務部・その他関係部署 】
- 5 日 時 2025年2月8日(土) 13:00～17:00
- 6 開催方法 会場での参加またはオンライン参加によるハイブリット方式
- 7 会 場 「パナソニックリゾート大阪」  
〒565-0802 大阪府吹田市青葉丘南10番1号 / TEL: 06-6877-0111 Fax 06-6877-0504  
※オンライン参加者には事前にアクセスURLをご連絡いたします。(Zoom利用予定)
- 8 内 容 (1) 2025年度 競技規則・競技運営規程及び国内大会レギュレーション  
(2) ルールの改訂点とその解釈  
(3) アンパイアリングの統一とアンパイアの技術向上  
(4) 2025年度 施設用具関係・アンチドーピング  
(5) 各ブロック・各団体との意見交換  
(6) ビデオ映像を利用した研修 他
- 9 受講料 ① 5,500円(会場参加)  
※交通費及び受講料は、個人または各ブロック・所属団体負担  
② 無 料 (オンライン参加)
- 10 受講申込方法 オンラインでの参加か会場来場による参加について、下記 URL より2025年1月5日(日)17:00までに必ず申してください。 <https://forms.gle/3Pv.jpkDVcE544F4y9>  
・職場や学校からのgoogleフォームへアクセスを制限している場合があります。その際は、家庭(私的ネット環境)やスマートフォンからアクセスいただく等ご協力をお願いします。  
・回答後に変更が生じた場合は、再度回答してください。  
※前泊・後泊(2/8・13時に間に合わない、終了後帰宅できない方)を希望される方の宿泊費は一般社団法人ホッケージャパンリーグが負担いたします。
- 11 そ の 他 ・紙ベースの資料は配布いたしません。資料は参加者に事前に送信いたします。  
研修会までに配信した資料をご一読いただければありがたいと思います。  
・ルールブック・ハンドブックの印刷物は作成いたしません。日本協会のホームページからダウンロードしてください。  
・オンライン参加をご希望の方々には会議URLを追って送付いたします。  
・この会議URLの使用は一回線とします。参加者以外には伝えないようにしてください。  
・このルール統一研修会は、競技強化支援事業助成金を受けて開催されています。
- 12 問合せ先 細川 祐司(ルール研修会担当)  
TEL: 090-2839-8954 メール: hoso@hockey-umpire.com  
競技運営部: events@japan-hockey.org

## 全国ルール統一研修会タイムライン ( 2025年度に向けてのルール研修会 )

1. 日 時 2025年2月8日(土) 13:00 ~ 17:10
  2. 場 所 オンライン・会場参加 開催
  3. 講 師 真 喜代司 (一般社団法人ホッケー・ジャパンリーグチェアマン)  
 安枝 和子 (競技運営部部長)  
 森 義彦 (競技運営部競技部部長)  
 西澤 英一郎 (競技運営部競技部副部長)  
 栗原 崇 (競技運営部競技部施設用具担当、国スポ調整室室長)  
 近藤 聡史 (競技運営部審判部部長)  
 藤原 信幸 (競技運営部審判部副部長)  
 細川 祐司 (競技運営部資格管理室室長)  
 埴岡 隆 (日本協会アンチドーピング・インテグリティ委員会委員長)
- ※運営 [会場設営責任者: 千野 雅人, 西澤 英一郎 / 進行: 細川 祐司/ 記録: 栗原 崇]

### 4. タイムライン

時 間			内 容	講師及び担当者
2月8日(土)			<司会進行…細川 祐司>	
(時刻)		(所要)		
13:00	13:10	10分	開 会 ・ ご挨拶 ・ オンライン受講のオリエンテーション	真 喜代司 細川 祐司
13:10	13:40	30分	<u>施設用具</u> ・ 競技備品 ・ 競技フィールド ・ ユニフォーム 他 <u>規程類改定</u> ・ 競技運営規程	森 義彦 栗原 崇 西澤 英一郎
13:40	14:10	30分	<u>アンチドーピング・インテグリティ&amp;スポーツ医・科学情報</u> SMG・歯と口の負傷事故率・脳振盪対応、スポーツとタバコ・不正防止	埴岡 隆
14:10	14:30	20分	休憩	
14:30	16:00	90分	<u>競技規則, ルールの解釈</u> ・ 2024年度大会における反省と課題 ・ 2025年度重点適用項目 ・ 判定に対するケーススタディ (映像活用)	近藤 聡史 藤原 信幸 西澤 英一郎
16:00	16:20	20分	<u>情報共有</u> ・ ロスオリンピックに向けた国際情勢 ・ 2025年度のイベント計画 ・ その他	近藤 聡史 安枝 和子
16:20	17:00	40分	<u>質問要望事項に関する回答</u> 質疑応答	講師全員
17:00	17:10	10分	閉会あいさつ	安枝 和子

参加者一覧

NO	所属団体	所属	氏名
1	HJL さくら	ソニーHC BRAVIA Ladies	早戸沙希
2		コカ・コーラレッドスパークス	信井康博
3		グラクソ・スミスクラインOrange United	小澤和幸
4		グラクソ・スミスクラインOrange United	渡邊あかね
5		南都銀行 SHOOTING STARS	宮崎奈美
6		南都銀行 SHOOTING STARS	上田さかえ
7		立命館ホリーズ	山田雅哉
8		山梨学院OCTOBER EAGLES	飯野明駿
9		東京ヴェルディホッケーチーム	藤尾香織
10		東海学院大学	小林和典
11		東海学院大学	福居絵吏子
12		駿河台大学LADYBIRDS	久我晃広
13	HJL D1	LIEBE栃木	福田隆秀
14		岐阜朝日クラブ BLUE DEVILS	藤井辰憲
15		BlueSticks SHIGA	岩山幸太郎
16		BlueSticks SHIGA	大橋守
17		ALDER飯能	福島駿介
18		立命館ホリーズ	松村誠
19		ヴェルコスタ福井	内藤寛公
20		福井工業大学	渡邊宏樹
21		山梨学院OCTOBER EAGLES	三澤孝康
22	HJL D2	Selrio島根	石原宏樹
23		Selrio島根	膳棚大剛
24		フリークス東京	長谷川慧
25		小矢部RED OX	沼田秀樹
26		東京農業大学	柏木健
27		東京農業大学	李永晃
28	駿河台大学	酒井友真	
29	HJL official	HJL ATD、2024TD、東海B競技長	荻谷和代
30		HJL UM、2024UM、A級	伊藤幸子
31		HJL UM、2024UM、東北B審判長、A級	鈴木茂明
32		HJL TO	梶田賢二
33		HJL TO	関根由美子
34		HJL TO	菊池玲子
35		HJL TO、2024UM	松原久
36		HJL TO	杉浦利哉
37		HJL TO	竹内芳郎
38		HJL TO	藤井明子
39		HJL TO	平沢美由紀
40		HJL TO	木村正直
41		HJL TO	鈴木岳穂
42		HJL TO	高野禎
43		HJL TO	高島匡代
44		HJL UMP、中国B審判長	中元大輔
45		HJL UMP、A級	児玉茂樹
46		HJL UMP、A級	山田恵美
47		HJL UMP、A級	成田健一
48		HJL UMP、A級	我妻順子
49		HJL UMP、A級	木下英貴
50		HJL UMP、A級	渡邊道彦
51		HJL UMP、A級	西山宏明
52		HJL UMP、A級	野澤達
53		HJL UMP	加藤拓馬
54		HJL UMP	坏耕一

NO	所属団体	所属	氏名
55	HJL official	HJL UMP	堀詩以奈
56		HJL UMP	大和田康一
57		HJL UMP	富田紗矢
58		HJL UMP	小坂井悠平
59		HJL UMP	小林哲也
60		HJL UMP	尾木典隆
61		HJL UMP	山根真徳
62		HJL UMP	清水雅生
63		HJL UMP	湯澤望
64		HJL UMP	湯澤健人
65		HJL UMP	石橋徹也
66		HJL UMP	稲元南
67		HJL UMP	谷口育代
68	HJL UMP	黒川歩夢	
69	HJL	チェアマン	真喜代司
70	JHA 各カテゴリー 代表	U15カテゴリー部会	久保克敏
71		U15カテゴリー部会	鈴木良子
72		U15カテゴリー部会、2024TD	馬場治男
73		高体連ホッケー専門部	喜多英登
74		高体連ホッケー専門部、2024TD	渡辺健一
75		マスターズ部会	吉成博行
76	ブロック長	北海道B競技長	山口敬
77		東北B競技長	田鎖豊
78		北信越B競技長	柴田稔
79		四国B競技長	三好健一
80		九州B競技長、2024UM、A級	富山喜正
81		北海道B審判長	手倉森勇夫
82		北信越B審判長	宮川敏充
83		東海B審判長、2024UM	重森誠
84	関西B審判長、A級	小原直也	
85	TD/UM/A級	2024TD	穴田直樹
86		A級	安岡裕美子
87	社会人連盟	事務局長	埴岡隆
88	競技運営部 参加者	部長	安枝和子
89		副部長	藤村利道
90		競技部長	森義彦
91		競技部副部長	西澤英一郎
92		競技部員	安木貴子
93		競技部員	長真納美
94		競技部員	氏家健太
95		審判部長	近藤聡史
96		審判部副部長	藤原信幸
97		審判部員	中野典子
98		審判部員	壽山由樹
99		審判部員	戸塚洋介
100		審判部員	相馬知恵子
101		審判部員	藤原真由美
102		審判部員	佐竹由加里
103		資格管理室長	細川祐司
104		資格管理室員	竹内高広
105		資格管理室員	柳田敏行
106	国スボ調整室長	栗原崇	
107	経理総務担当	千野雅人	
108	経理総務担当	高橋英行	

Atqz decens pot<sup>9</sup> post fercula sit tibi  
Pedit eni medo tunc potatus Ut bene  
Balnea tut<sup>9</sup> intres et Venã findere

# 2025 ルール研修会

## 競技部

期日：2025年2月8日

会場：パナソニックリゾート大阪



Taken from a copy of Pigouchet's *Horæ ad Usum*  
Sarum, A.D. 1502.

# 2025年競技運営規程

## 1) 大会競技役員

### 現行

2.2 b 参加チームのプレイヤー、役員を大会の競技役員に指名することはできない。

### 改定案

2.2 b 参加チームのプレイヤー、役員を大会の競技役員に指名することはできない。但し、6人制の大会及びマスターズジャパンカップにおける競技役員を除く

### 目的

過密な大会日程への対応及び、多くの競技役員を必要とする大会運営を円滑に行えるようにするため

# 2025年競技運営規程

## 2) 参加申込

### 現行

3.4 d ベンチに入ることが希望するヘッドコーチ、アシスタントコーチ、フィジオセラピスト、ドクター、部長等がいればその氏名。フィジオセラピストまたはドクターの代わりに手当てする者を登録することができる。手当てする者は、大会開始日に20歳以上でなければならない。

### 改定案

3.4 d ベンチに入ることが希望するヘッドコーチ、アシスタントコーチ（複数名可）、フィジオセラピスト、ドクター、部長、監督代行、その他チーム役員等（参加申込時に登録できる最大人数については、別途大会運営規程にて定める）がいればその氏名。フィジオセラピストまたはドクターの代わりに手当てする者を登録することができる。手当てする者は、大会開始日に20歳以上でなければならない。

### 目的

各試合での適切なスタッフ配置を行い、チームのパフォーマンス向上を図るために参加申し込み段階での登録可能者の拡大。各大会における最大登録人数は大会運営規程にて定める。

# 2025年競技運営規程

## 3) チーム代表者会議

### 現行

4.2 d JHA行動規範確認書。(電子メールによるPDFでの提出を原則とする。)

### 改定案

4.2 d JHA行動規範確認書。(電子メールによるPDFでの提出を原則とする。また大会実施要項に下記の記載がある場合を除く)

「参加者(チーム、競技役員、大会関係者)は、(公社)日本ホッケー協会が定める諸規程を熟知し、その内容に同意の上、「行動規範確認書」を提出したものとみなします。違反した場合には、懲戒処分を受ける可能性があり、参加者は、自身の言動について責任を負うものとします。」

### 目的

各大会における事務作業の低減

# 2025年競技運営規程

## 4) スターティングリスト（試合のチーム構成）

### 現行

5.2 f 手当する者（最大2名）。手当てする者にはフィジオまたはドクターを指名できる。また、手当てする者には、試合に出場する最大18名のプレイヤーと監督を除く者（プレイヤーを含む）を指名できるが、大会開始日に20歳以上の者でなければならない。JHA行動規範確認書。（電子メールによるPDFでの提出を原則とする。）

### 改定案

5.2 f **チーム医療スタッフ（フィジオまたはドクターの最大2名）**。チーム医療スタッフが不在の場合には、**手当てする者をチーム医療スタッフの代わりとして最大2名**、手当てする者には、試合に出場する最大18名のプレイヤーと監督を除く者（プレイヤーを含む）を指名できるが、大会開始日に20歳以上の者でなければならない。

### 目的

チーム医療スタッフの位置付けの明確化

# 2025年競技運営規程 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

## 3. グリーンカード（2分間の退場）

### 現行

3.1 e 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。

### 改定案

3.1 e 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。プレイヤーが指定された場所に着席中に、さらにグリーンカードを提示された場合、上記aで最初に示された時間に追加され、最初の出場停止の終了後直ちに追加された2分の計測を開始する。

### 目的

一時退場中に同一プレイヤーに追加でカードが提示された場合の取り扱いについて明確化

# 2025年競技運営規程 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

## 4. イエローカード（一時退場）

### 現行

4.1 f 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。

### 改定案

4.1 f 退場時間は、プレイヤーが指定された場所に着席した時点から計時する。プレイヤーが指定された場所に着席中に、さらにイエローカードを提示された場合、上記aで最初に示された時間に追加され、最初の出場停止の終了後直ちに追加された時間の計測を開始する。

### 目的

一時退場中に同一プレイヤーに追加でカードが提示された場合の取り扱いについて明確化

# 2025年競技運営規程 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

## 5. ペナルティコーナークロック

### 現行

5.2 ペナルティコーナーが与えられたとき上記2.1 fに基づき試合時間は40秒間停止される（守備側プレイヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝あて等の着用の時間として）。アンパイアは両チームに40秒の経過が近づいていることを必要に応じて伝える。40秒経過時にアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。両チームの準備ができていれば、40秒経過前であっても笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。笛の合図により試合時間の計測が再開される。

### 改定案

5.2 ペナルティコーナーが与えられたとき上記2.1 fに基づき試合時間は40秒間停止される（守備側プレイヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝あて等の着用の時間として）。**すべての守備側プレイヤーは顔面または頭部全体を保護するフェイスマスクを着用する。**ペナルティコーナーをアンパイアは両チームに40秒の経過が近づいていることを必要に応じて伝える。40秒経過時にアンパイアは笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。両チームの準備ができていれば、40秒経過前であっても笛を吹いてペナルティコーナーの開始を合図する。笛の合図により試合時間の計測が再開される。

### 目的

守備側プレイヤー頭部へのボールによる重篤な負傷を予防するために、現在義務となっていないフェイスマスクの着用を義務化

# 2025年競技運営規程 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目

## 5. ペナルティコーナークロック

### 現行

5.4 遅延行為があった場合は、当該プレイヤーに個人的罰則を科す（グリーンカード）。たび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。

### 改定案

5.4 遅延行為があった場合は、当該プレイヤーに個人的罰則を科す（グリーンカード）。たび重なる遅延行為には更に重い個人的罰則を科す（イエローカード）。**但し、40秒を超えた理由がフェイスマスクなどの防具を探す目的等、安全を優先するための行為で有った場合は故意の遅延行為とはみなさず、個人的罰則を科さない。**

### 目的

プレイヤーの安全を第一とするため、防具の着用（前回のペナルティコーナーによる防具の散乱を原因とする）について適切な時間の配慮を行うため

# 2025年競技運営規程 レギュレーション一覧

## 2025年度の国内大会で実施するレギュレーション一覧表(案)

レギュレーション項目	対象となる大会・試合	実施方法・留意点
一時退場者の退場時間と再入場	国内の大会すべて	11人制は、イエローカードが提示された場合の一時退場時間は5分間か10分間（6人制は2分間以上）とする。審判員は、イエローカードを提示した後、テクニカルテーブルに向かって、5分間の場合は手を広げて片手をあげる。10分間の場合は、手を広げて両手をあげる。 中学生の11人制及び全ての6人制の大会において、グリーンカードが提示された場合の一時退場時間は1分間とする。 一時退場時間が完了した時点でPC実施中の場合は、再入場はサッカー競技規則13.5に定めるPC先送後となる。
一時退場者の退場時間	すべての国内の試合	グリーンカードまたはイエローカードが提示され、退場しているプレイヤーに対して、退場時間中に重ねてカードが提示された場合、その提示されたカードの時間が、元の退場時間に加算される。
サジェスションアンパイア制度、ビデオアンパイア制度のどちらかまたはその両方を採用する。	①インターハイ：準決勝以上 ②高校選抜：準決勝以上 ③大学王座：準決勝以上 ④全日本社会人：準決勝以上 ⑤全日本学生選手権：準決勝以上 ⑥国民体育大会：全種別準決勝以上 ⑦男女全日本選手権：すべての試合 ⑧日本リーグ：すべての試合	サジェスションアンパイア制度またはビデオアンパイア制度を採用し（両制度を同時に採用する場合もあり得る）、チームにリファール権を与える。 「ノーパブイス」時の対処方法等を含め、詳細は競技運営規程参照のこと。 対象大会、試合以外でもTDの判断により配置することができる。 サッカー日本リーグについては、独自にビデオアンパイア制度を採用する試合を決定する。
リファール時等の選手交代	国内の試合すべて	リファールが行われた場合やPG・FG・得点に関わる異議があり、審判が時間を停止した際は、その後判定が行われるまで選手交代ができない。判定が行われた後は競技規則に則って選手交代が行われる。 選手交代はTOが管理する。
通訳者のベンチ入り	すべての国内の試合	日本語での意思疎通ができない監督に対してチームは通訳を行う者をベンチに入れることができる。通訳者は規定されているベンチ入りできるチーム役員に追加してベンチに入ることができる。通訳者はチーム選手に対する監督の指示内容を日本語でフィールドに向かって発声することができる。「ノーパブイス」が設定されている場合は、その中で立って指示を与えることができるが、コーチングエリアには同時に2名以上入ることはできない。50分時にはベンチから出ることはできない。 通訳者は下記の項目をすべて満たしている場合に限りベンチに入ることができる。ベンチ入り際にはスターティングリストへの通訳者氏名の記載は不要であるが、毎試合、スターティングリスト提出時までに通訳者をベンチ入りさせる旨の連絡をTOに行わなければならない。 ・大会参加申込書の送付と同時に通訳者をベンチ入りさせたい旨の連絡をTDおよび主催者にしている。 ・TDが求める通訳者に関する情報をチーム代表者会議までにTDに提供している。 ・監督は日本語による意思疎通を行う能力を持っていない。（外国人コーチに対する通訳者のベンチ入りは不可） ・通訳者は監督が話す外国語および日本語に堪能である。 ・通訳者はJFAが発行する登録証を所持している。（種別は問わない） 通訳は国際化の流れを鑑み、あくまでも監督の外国語による発音内容や日本語に変換して選手に伝える役割として特別にベンチ入りと認めるものであり、通訳の業務を逸脱した行為（選手の手当て、監督の発言に基づかないコーチング、指導、応援、審判・相手チームへの発言等）をしてはならない。違反した場合は、TDまたはTOから退場処分を与える場合がある。言語能力等の判断はTDが行う。大会運営規程で関連する定めが別途ある場合は、それに従う。
スライディングプレイ	すべての国内の試合	スライディングを伴うプレイの結果、相手選手の身体やスティックに触れた場合、個人的罰則はイエローカードによる10分間の退場とする。2回目はレッドカードとする。 スリップ等故意で無いが、結果的にスライディングを伴うプレイの形になり、相手選手の怪我を誘因してしまった場合も厳正に対処する。その際は、審判員は状況に応じた罰則内容を適用する。
上げられたボール（スクープ）	すべての国内の試合	落下地点でレシーブしようとしているプレイヤーに対し、そのボールを受け取るプレイヤーがボールに触れるまで、相手側プレイヤーはそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。但し、プレイヤー同士がプレイ可能範囲内に近づかないこと、インターセプト後もプレイ可能範囲内にならないこと（レシーブしようとした相手プレイヤーから離れる方向にインターセプトしたボールと共に動いていくこと）を条件条件として、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。
スターティングリストに記載する選手の数制限について	大学王座決定戦、全日本学生選手権、全日本社会人選手権、全日本選手権	スターティングリストに記載できる選手の数について、大学王座決定戦及び全日本学生選手権は、上限を22名とし、全日本社会人選手権、全日本選手権は、上限を18名とする。このことは、実施要項に明記して周知を図ることとする。 その他の大会においても、エントリー人数並びにスターティングリストに掲載する人数の上限については、実施要項に明記して周知することとする。
ペナルティコーナー後の守備者のPC用防具の取外しについて	すべての国内の試合	守備者はペナルティコーナーの終了後の再開がビハインドヒットであった場合、すべてのPC用防具を取外した後にビハインドヒットを行うことができる。これは、ビハインドヒットとなった場合、守備者にはPC用防具を取外す適切な機会があったものとみなされるからである。但し、PC用防具の取外しに不必要に時間を消費してはならない。
ペナルティコーナー後の守備者のフェイスマスクの着用について	すべての国内の試合	ペナルティコーナーの守備者の安全を確保することを目的として、ペナルティコーナーの守備を行うプレイヤーは、顔全体を覆うフェイスマスクを着用しなければならない。プレイヤーファーストの考え方から、フェイスマスクを探す等に時間を要した場合には、40秒を超えてもカードの対象としない。

# 公式試合記録等

## 1) 事故・負傷報告書

### 事故・負傷報告書



公益社団法人 日本ホッケー協会

大会名： インターハイ

発生日時： 20\*\*年1月1日(月) 10:15頃

試合番号： 9

会場： \*\*ホッケースタジアム

天候： 晴れ

ピッチの状況： W

当該チーム名： 日本ホッケー協会A

対戦チーム名： 日本ホッケー協会B

備考： \_\_\_\_\_

※国スポ(予選含む)の場合は種別を記入

### 事故・負傷内容

負傷者名 背番号	事故の状況	事故後の処置	医療機関での診断	医療機関での処置
日本 太郎	スティックによる頭部打撲・裂傷	救急搬送にて〇〇病院搬送	頭部左側に裂傷	3針縫う縫合処置及びアイシング
#9				

報告者： 当該チームAの監督又は医療スタッフ

INJURYTROUBLE REPORT Rev.2025/4/1

# 2025年ユニフォーム規程

## 1) フィールドプレイヤーのユニフォーム

2.5 ユニフォームの袖の長さ、襟の有無の制限はないが、試合を通じて全員が同じ仕様のユニフォームを着用しなければならない。長袖、半袖、袖無しのユニフォームの選手が混在していても良い。  
また、スコートタイプ、パンツタイプのユニフォームの混在を認めるが、同色かつ同一デザインの混在に限る。(赤字の部分を追記)

## 2) 都道府県名等

8.1 所属都道府県名の記載(都道府県名又は都道府県のロゴマーク)

a 都道府県名の表示は任意とする。

都道府県名を付する場合の場所及びサイズは、次のとおりとする。

a.1 シャツ

場 所： 原則袖のどちらか一方又はシャツに表示したチーム識別標章の周辺の1カ所のみ配置

サ イ ズ： 50cm<sup>2</sup>程度

### 3) スポーツクラブ名

#### 9. スポーツクラブ名等の表示

##### 9.1 スポーツクラブ名又はスポーツクラブのロゴマーク

a スポーツクラブ所属チームのスポーツクラブ名又はスポーツクラブのロゴマークの表示は任意とする。スポーツクラブ名又はスポーツクラブのロゴマークを付ける場合の場所場所及びサイズは、次のとおりとする。

##### a.1 シャツ（スポーツクラブ名/スポーツクラブロゴマーク）

場 所： スポーツクラブ名の場合は、袖のどちらか一方又はシャツ前面か背面の1カ所のみ配置。ロゴマークの場合は、原則袖のどちらか一方又はシャツに表示したチーム識別標章の周辺の1カ所のみ配置

サ イ ズ： スポーツクラブ名 300cm<sup>2</sup>程度  
ロゴマーク 50cm<sup>2</sup>程度

9.2 スポーツクラブ名等を掲出する場合は、大会開始日の3日前までに表示する図柄、大きさ、位置を主催者に申請しなければならない。

9.3 主催者は、競技運営に支障が出る等の正当な理由がある場合は申請を却下することができる。

# 国民スポーツ大会における選手の背番号

## 現行

選手の背番号は、1～13番とし、選手を兼務する監督は、14番

## 改訂案

選手の背番号は、1～18番とする。

### 理由：

- ①ブロック予選の背番号をそのまま登録できる。
- ②ユニフォームサイズにより布やテープで貼り付けているが、見栄えが悪くテープの場合には試合中にテープが剥がれてしまうことがある。

# ホッケー競技場の施設・備品ガイドライン

## 1) 公認試合球

競技会	公認試合球 (FIH公認ボール規格)	
高円宮杯日本リーグ	グローバル規格 <b>*セルフ・ウェットिंग規格</b>	
全日本選手権 (プレーオフ含む)		
社会人プレミアムカップ		
全日本社会人大会		
国民スポーツ大会		
全日本学生選手権大会		
全日本大学王座決定戦・東西交流戦		
全国高等学校選手権大会		グローバル規格 <b>*セルフ・ウェットिंग規格</b>
全国高等学校選抜大会		
全日本中学生選手権大会		
全日本中学生都道府県対抗11人制		
スポーツ少年団交流大会		
全日本マスターズ大会	ナショナルエリート規格	
マスターズ Japan Cup		
全国大会の予選会		

**\* イノベーション規格フィールドをドライ状態で使用するとき限定する。**

- ・JHA用具販売公認時業者が販売または提供したFIH公認ボールであること。
- ・大会実施要項には、競技会で使用するボールの商品名を明記すること。

### Self-Wetting Approved Balls



FIH 2025/4/1現在	グローバル規格 (クラス1)	セルフ・ウェットिंग規格	
商品名	Kookaburra Dimple Elite	ReWetta Self-wetting Hockey Ball	
製造会社	Kookaburra Sport Pty Ltd.	Makin H bv	
FIH 2025/4/1現在	ナショナルエリート規格 (クラス2)		
商品名	Kookaburra Dimple Standard	Chingford Gold	Grays Select
製造会社	Kookaburra Sport Pty Ltd.	Anwar Khawaja Composites	Grays Hockey

 2025/4/1現在	グローバル規格 (クラス1)		セルフ・ウェッティング規格	
商品名	Kookaburra Dimple Elite		ReWetta Self-wetting Hockey Ball	
製造会社	Kookaburra Sport Pty Ltd.		Makin H vb	
内部構造				
 2025/4/1現在	ナショナルエリート規格 (クラス2)			
商品名	Kookaburra Dimple Standard	Chingford Gold	Grays Select	
製造会社	Kookaburra Sport Pty Ltd.	Anwar Khawaja Composites	Grays Hockey	
内部構造				

# フィールド公認規程

## 1) 下部構造特性検査

項目		人工芝敷設前	人工芝敷設後
		下部構造特性検査	フィールドテスト透水性
新設		○	×
張替	アスファルト打替え	○	×
	人工芝システム張替 (既設アスファルト 補修含む)	○	×
	*カーペット張替 (既設アスファルトと既設ショックパット 補修含む)	○	×
更新		×	○

\*については、ショックパット上で実施する。また、既設ショックパットの衝撃吸収率検査と垂直変位検査を実施する。

＜既設ショックパット使用の性能要件＞

- ①ショックパットのタイプが、敷設されるホッケー・ターフシステムで使用されているものと似ていること。
- ②既設ショックパットの衝撃吸収率が、敷設される公認ホッケー・ターフのその値の± 5%以内であること。
- ③既設ショックパットの垂直変位が、敷設される公認ホッケー・ターフのその値の± 3mm以内であること。
- ④ショックパットの透水性が150mm / hを超えていること。
- ⑤ショックパット表面の平坦性が、性能要件に準拠していること。

全国ルール統一研修会 2025年2月8日(土) 13:40-14:10 オンラインハイブリッド

# アンチドーピング(AD)・インテグリティ &スポーツ医・科学情報

JHA AD・インテグリティ委員会/  
強化育成本部 スポーツ医・科学情報室

埴岡(はにおか) 隆

JHA理事(2022.7～)

JSPOスポーツデンティスト・JADA承認Educator

# 1. 歯・口の負傷事故の実態判明

# 2. 脳振盪対応ガイドラインの制定と運用

# 3. スポーツとタバコ・不正防止 アンチドーピング

## 講師略歴

JSPOスポーツデンティスト・JADA承認Educator

## ホッケー競技歴

日本リーグ元(女)事務局長、(男)運営委員長

日本社会人連盟 専務理事, 関西社会人リーグ 委員長

元B級審判員、天王寺高校 インターハイベスト8

大阪大学 関西学生リーグ 2位1回、3位2回

最敢闘選手賞 4回

## 職 歴

大阪大学院歯学研究科・福岡歯科大学・宝塚医療大学



公益社団法人

日本ホッケー協会

スピード感と安定感のあるフォルムは、  
未来へ向けて発展しようという  
日本ホッケー協会の意思を表現しています。

赤いボールから伸びる5本の横線は、それぞれ  
ホッケーのフェアプレー精神に則った、

伝統

品格

友情

革新

情熱

を示しています。



# 1. 歯・口の負傷事故の実態判明

2024年秋開催の日本スポーツ歯科医学会で発表された  
「歯の事故と競技特性とマウスガードに関する競技規則との関係」

## 発生頻度（10万人対）順位

- 1 135件 ホッケー
- 2 84件 ボクシング
- 3 66件 ドッジボール
- 4 56件 アイスホッケー
- 5 45件 バスケットボール

## その後、公財) スポーツ安全協会にデータ提供を依頼

スポーツ安全保険の傷害保険金支払い実績による傷害統計データ

歯牙損傷(スポーツマウスガード関係)の発生件数・発生頻度

年度	ホッケー 加入者数	発生頻度	発生件数
平成29年 <b>2017</b>	8,166人	135/10万人 第1位 ホッケー, ボクシング, アイス ホッケー, バスケットボール	<b>11件</b>
令和4年度 <b>2022</b>	7,341人	加入者は減ったが 件数は増えている 練習中が多い	<b>15件</b> 発生時期: 試合中5, 練習試合中2, 練習中7, 不明1 発生年代: 中学生以下4, 高校・大学生6, 社会人5

# 全傷害：ホッケーの発生頻度は高い⇒2025年度調査協力お願い

公益財団法人 スポーツ安全協会提供よりデータ提供

全傷害(医事関係全体)の発生件数・発生頻度			
年度	全加入者数 (ホッケー)	発生頻度	全件数/入院/障害
平成29年 2017年度	8,721,391人 (8,166人)	3,992.0	326/?/?
令和3年 2021年度	7,530,478人 (7,653人)	3,959.2 第5位 アメリカンフットボール, ドッジボール, ラ グビー, ホクシング, ホッケー	303/24/2
令和4年 2022年度 (資料集)	7,458,442人 (7,310人)	4,528.0 第8位 ドッジボール, ラグビー, 体操, アメリ カンフットボール, 柔道, 馬術, バス ケットボール, ホッケー	331/19/2

## 2.脳振盪対応**手引書**の制定と運用

ホッケー競技における脳振盪に対する手引書 2024年8月20日令和6年度第6回理事会 強化育成本部

喜久生明男、喜久生健太

1. はじめに
2. 脳振盪とは
3. 脳振盪の症状
4. セカンドインパクトシンドローム
5. 脳振盪の徴候があった時の対応：疑ったときのツール
6. 脳振盪が疑われた時の対応
7. 脳振盪からの復帰  
学業復帰の仕方 競技復帰の仕方
8. ピッチで誰が脳振盪、脳振盪疑いを判断するのか  
脳振盪を疑ったときのツール  
脳振盪からの段階的復帰 Pocket SCAT2

# 3.スポーツとタバコ アンチドーピング 不正防止

# アスリート・サポートスタッフの 禁煙支援・タバコ使用防止

強化補助金評価の1項目(禁煙教育など)→①健康の担い手の手本の役割  
アンチ・ドーピング:ゲートウェイ ソフトドラッグ→ハードドラッグ(禁止物質)

## <関係の略歴>

- 2015年 厚生労働省健康局歯周疾患検診マニュアルの改訂に関する検討会構成員
- 2015年 国立研究開発法人国立がん研究センター喫煙と健康問題に関する包括的評価委
- 2016年 財務省財政制度等審議会たばこ事業等分科会表示等部会参考人
- 2016年～ WHO(世界保健機関)TFI/PND歯科簡易タバコ介入モノグラフ制作コントラクター・コンサルタント、LMIC禁煙診療ガイドライン外部評価者
- 2021年 日本学術会議健康生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会特任連携会員

# 喫煙と健康

2020年



国立研究開発法人国立がん研究センター

2017年



## 喫煙と健康

厚生労働省 喫煙の健康影響に関する検討会報告書(平成28年8月)の概要を知りたい人のために



国立がん研究センター  
National Cancer Center Japan

厚生労働省「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」について  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shing/2/000135586.html>

たばこを吸っている本人の場合

たばこ煙には発がん性物質が約70種「ニコチン」の依存性によりやめにくい

### ニコチン

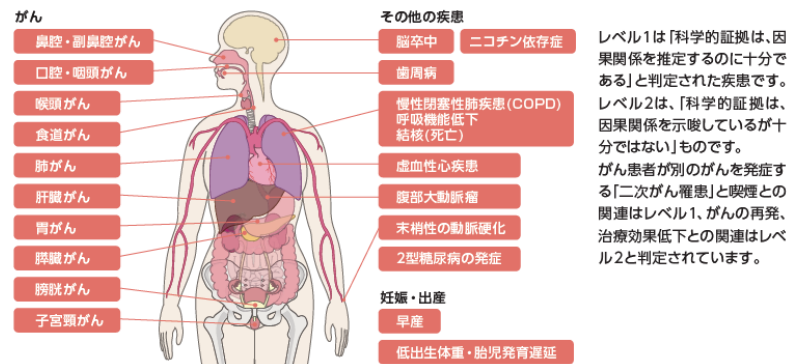
ニコチンは、たばこへの依存性を高める化学物質です。使用を止める困難さや離脱症状の厳しさなどにおいて、ヘロインやコカインなどの薬物と同等の特徴と強度を有しています。たばこにはメンソールやココアなどの化学物質が添加され、喫煙者がより多くのニコチンを摂取するように作られています。



### たばこ煙

たばこの煙には約5,300種類の化学物質が、その中には約70種類の発がん性物質が含まれています。これらの物質は、肺などたばこの煙に直接触れる場所だけでなく、血液を通じて全身に運ばれ、がんの原因となります。がん以外にも、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、虚血性心疾患や脳卒中などの原因となります。

たばこを吸っている本人はこんな病気になりやすくなる(根拠十分: レベル1)



その他の喫煙者本人への影響(因果関係を示唆: レベル2)

がん	急性骨髄性白血病 乳がん 腎盂尿管・腎細胞がん 大腸がん 子宮体がん(リスク減少) 前立腺がん(死亡)
妊娠・出産	生殖能力低下 子癩前症・妊娠高血圧症候群(リスク減少)* 子宮外妊娠・常位胎盤早期剥離・前置胎盤*
その他の疾患	認知症 う蝕(虫歯) 口腔インプラント失敗 歯の喪失 気管支喘息(発症・増悪) 胸部大動脈瘤 結核(発症・再発) 特発性肺繊維症 閉経後の骨密度低下 大腿骨近位部骨折 関節リウマチ 日常生活動作の低下

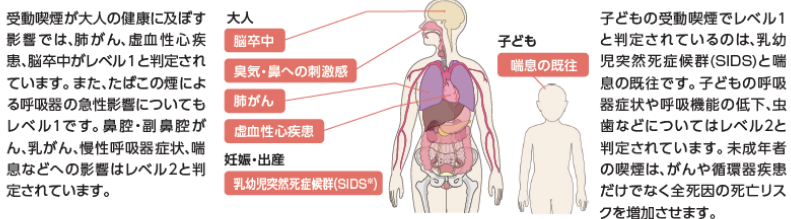
※経緯の整理との関係

たばこを吸っている人のまわりの人

副流煙には発がん性物質やニコチン、一酸化炭素などの有害物質が主流煙の数倍も含まれる



受動喫煙でまわりの人はこんな危険が高くなる (根拠分類: レベル1)



そのほかの受動喫煙による健康影響 (因果関係を示唆: レベル2)

大人	<ul style="list-style-type: none"> <li>鼻腔・副鼻腔がん 乳がん</li> <li>急性影響</li> <li>急性呼吸器症状 (喘息患者・健康者)</li> <li>急性の呼吸機能低下 (喘息患者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性影響</li> <li>慢性呼吸器症状</li> <li>呼吸機能低下</li> <li>喘息の発症・コントロール悪化</li> <li>慢性閉塞性肺疾患 (COPD)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊娠・出産</li> <li>低出生体重・胎児発育遅延</li> </ul>	
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>喘息の重症化</li> <li>喘息の発症*</li> <li>呼吸機能低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童期の咳・痰・喘鳴・息切れ*</li> <li>中耳疾患</li> <li>う蝕 (虫歯)</li> </ul>		

喫煙と疾患の因果関係判定

喫煙と疾患の関係を、研究結果の一致性、量反応関係、禁煙後のリスク減少の有無などさまざまな要素を科学的な観点から総合的に判断し、4段階で判定しています。

- レベル1** 科学的根拠は、因果関係を推定するのに十分である
- レベル2** 科学的根拠は、因果関係を示唆しているが十分ではない
- レベル3** 科学的根拠は、因果関係の有無を推定するのに不十分である
- レベル4** 科学的根拠は、因果関係がないことを示唆している

報告

加熱式タバコの毒性を知り 科学的根拠に基づく施策の実現を



令和5年(2023年)9月27日

日本学術会議

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同

脱タバコ社会の実現分科会

国立研究開発法人国立がん研究センター

有害である。  
本人・周囲の者に健康リスクがある。  
禁煙を阻害する。  
喫煙開始/再開が増える。  
対策が遅れる。

# アスリートの**手本**としての役割・期待



厚生労働省世界禁煙デーポスター



## アンチ・ドーピングとは

アンチ・ドーピングとは「クリーンで公正なスポーツを守るための活動」です。



あなたは「スポーツの価値」と聞いて何を想像しますか？  
そして、未来に継承したい「スポーツの価値」は何ですか？

ドーピングとは アンチ・ドーピングとは なぜ、アンチ・ドーピングが必要なのか  
スポーツにはどのような「価値」があるのでしょうか？

我が国のスポーツ基本法には、「スポーツは世界共通の人類の文化」と記載されています。  
私たち人類は、スポーツの中で多様な価値を育み、継承してきました。それは、上記のような価値が、

単にスポーツの中でのみ尊重されているものではなく、

スポーツ以外の日常生活のさまざまな場面においても、さらには個人の生き方としても尊重され、守られるべきものだと、「世界の人々が信じている」からです。

# 「スポーツの価値」

BBC NEWS JAPAN

ロシア選手団、ドーピングで主要大会4年間除外  
東京五輪も

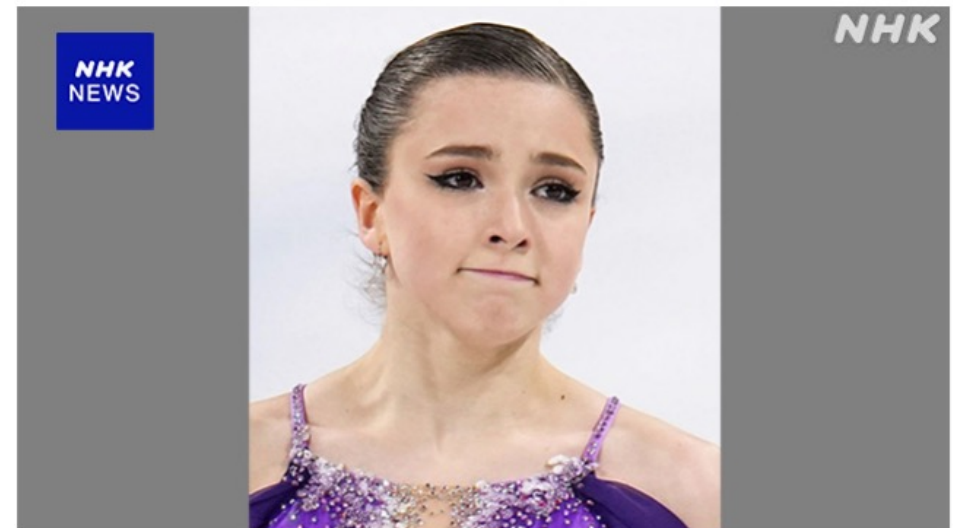
2019年12月10日

2019.12.10. BBCニュース



GETTY IMAGES

2020年東京五輪と2022年北京五輪でロシアの選手は、国としての参加や国旗の使用は認められないことになった

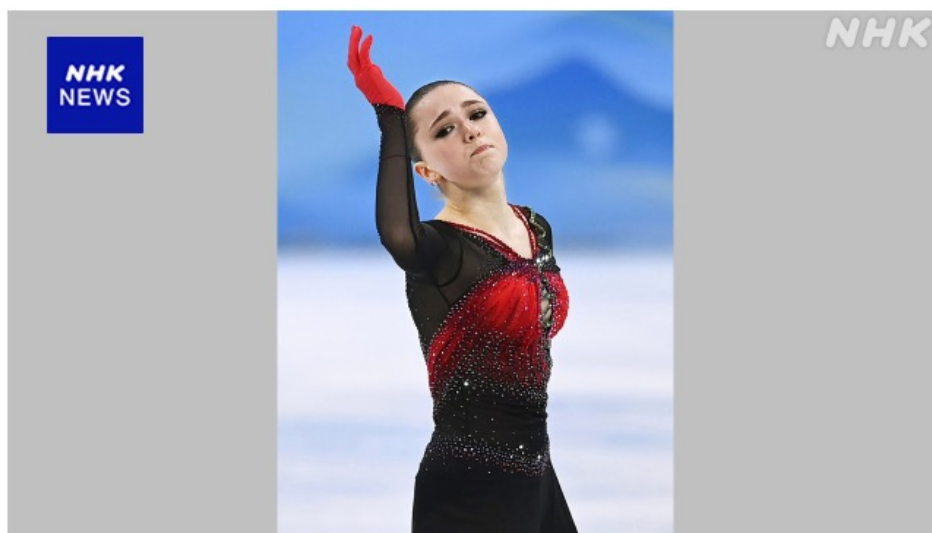


フィギュア ワリエワのドーピング違反 来年  
1月末までに裁定へ

2023年11月11日 8時53分

2023.11.11. NHKウェブ

# 「クリーンスポーツ」4年間資格停止



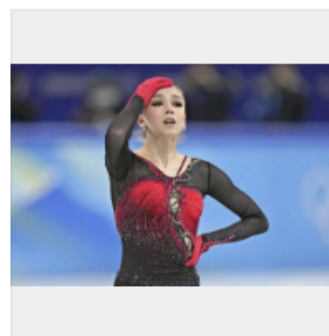
フィギュア ドーピング違反のワリエワ 4年間の資格停止処分に

2024.1.30.NHKウェブ

ワリエワ4年間の資格停止の裁定、IOCバツ八会長「全面的に尊重する」

2/1(木) 20:12 配信 10 100 100 X f

読売新聞 オンライン



北京五輪フィギュアスケートに出場したワリエワ(2022年2月7日) = AP

スポーツ仲裁裁判所(CAS)がフィギュアスケート女子のカミラ・ワリエワ(17)(ロシア)に4年間の資格停止処分を科す裁定を下したことについて、国際オリンピック委員会(IOC)のトーマス・バツ八会長は1日、「この決定を全面的に尊重する」と述べた。

【写真】北京五輪、女子フリーの演技で転倒するROCのカミラ・ワリエワ

2024.2.1.読売新聞オンライン

# 「検査の厳格化と選手の権利擁護」

2024.1.9.SPORT POLICY INCUBATOR



意図的な違反者に対する厳格な検査体制  
意図的ではない違反に対する対応の必要性

🏠 / 知る学ぶ ▾ / SPORT POLICY INCUBATOR —スポーツ政策の『卵』— / ドーピング検査の厳格...



アンチ・ドーピング活動の拡充  
アスリートの人権を保護するための活動  
アスリートを支援する体制が強化される

クイックリンク

自治体／行政機関の方へ >

研究機関／競技団体の方へ >

学生／大学生の方へ >

浅川 伸 (公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事)

新たな展開・展望—**定着をめざして**

日本ホッケー協会**独自の**アンチ・ドーピング教育  
**承認Educator制度**の定着をめざす

3名の承認Educatorが対面方式の研修を担当  
埴岡 隆・小野真由美・喜久**生**健太

2025年の重点目標

JADAが指定する国内最高峰の大会のひとつ  
HJLの選手・サポートスタッフのeラーニング受講  
U15チームへのJADA講師による研修開催

# アンチ・ドーピング教育の拡充

## Paris 2024

Eラーニング  
「パリ2024オリンピックに  
向けたADEL（日本語）」  
コースを公開しました  
[ multilingual support ]



2024.01.29

Eラーニング「パリ2024オリンピック  
向けたADEL（日本語）」コース  
を公開しました！

## 2024年禁止表国際基準

2024年1月1日から



トラマドール が禁止物質に！

2023.12.01

2024年禁止表国際基準（日本語）  
がリリースされました

## CLEAN ATHLETE CONNECT

クリーンアスリートのための  
オープンセミナー



2023.06.22

"Clean Athlete Connect" クリー  
ンアスリートのためのオープンセミ  
ナーに参加しよう！

FOR  
クリ

# アンチ・ドーピング教育の対象

MEM

## WHO

自身のカテゴリーから情報を探す

## あなたも対象



RTP/TP



国内レベル



国スポ出場者



ユース・タレント



レクリエーション



監督・コーチ



医療従事者



スポーツ関係者

アスリート・  
カテゴリーを確認する



# 強化パスウェイ(FTEM)との連携も推進



競技団体の全員が対象になりました！

# 6/1にJHA規程施行後の初の全国研修

## 日本ホッケー協会 アンチ・ドーピング規程

### 第1条（目的）

本規程は、日本ホッケー協会のアンチ・ドーピング活動についての事項を定めることを目的とする。

### 第2条（適用対象者）

本規程は、以下に対して適用される。

- (1) 日本ホッケー協会及びその役職員並びに委員会委員等の関係者
- (2) 競技者
- (3) サポートスタッフ
- (4) 日本ホッケー協会の権限下にあるその他の人
- (5) 加盟団体（その下部組織を含む）

**あなたにも適用されます**

# 役割と責務を負います

## 第6条（競技者の役割と責務）

競技者は、日本規程第24条に定める役割と責務を負う。

## 第7条（サポートスタッフの役割と責務）

サポートスタッフは、日本規程25条に定める役割と責務を負う。

**第24条 競技者の追加的な役割と責務 ..... 104**

**第25条 サポートスタッフの追加的な役割と責務..... 104**

## 第 24 条 競技者の追加的な役割と責務

**24.1** 本規程を理解し、遵守すること。

**24.2** いつでも検体採取に応じること。

[第 24.2 項の解説：競技者の人権及びプライバシーに配慮して、正当なアンチ・ドーピング上の判断の結果として深夜又は早朝の検体採取が要請される場合がある。例えば、競技者の一部は、朝発覚されないようにするため、当該時間帯に少量の EPO を使用することが知られている。]

**24.3** アンチ・ドーピングとの関連で、自己の摂取物及び使用物に関して責任を負うこと。

**24.4** 禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという義務を負っていることを医療従事者に対して自らが伝達するとともに、自らが受ける医療処置についても、本規程の違反に該当しないようにすること。

**24.5** 自身が過去 10 年間の間にアンチ・ドーピング規則違反を行った旨の非署名当事者による発見の決定を JADA 及び自己の国際競技連盟に開示すること。

**24.6** アンチ・ドーピング規則違反を調査するアンチ・ドーピング機関及び JSC のドーピング調査に協力すること。

**24.7** JADA 若しくは国内競技連盟、又は競技者に対し権限を有する他のアンチ・ドーピング機関が要請した場合には、自己のサポートスタッフの身元を開示すること。

サプリ

TUE

## 第 25 条 サポートスタッフの追加的な役割と責務

# 教育インフルエンサー 役割と責務

25.1 本規程を理解し、遵守すること。

25.2 競技者の検査プログラムに協力すること。

25.3 ドーピングを行わない態度を醸成するために、競技者の価値観及び行動に対し自らの影響力を行使すること。

25.4 サポートスタッフは、競技者名当事者として、競技者の行動規範の「協力」は、非署名

25.5 アンチ・ドーピング調査に協力すること。ピン

25.6 サポートスタッフは、正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を使用し又は保有しないものとする。

# WHAT

# トピック

## アンチ・ドーピング教育の内容



スポーツの価値・  
クリーンスポーツ環境のため



クリーンスポーツ行  
習慣化



ルール違反の  
項目



ルールに  
違反したら



健康を守る  
ため



自身がクリーンであることを  
証明



スポーツを  
守る・創る

# 11トピックスにもとづく7つのカテゴリー

**11** トピックスにもとづく **7** つのカテゴリー





## 検査厳格化と権利擁護 7年間のドーピング違反34件

- ・「意図的ドーピング違反で無い」制裁期間短縮は15件
- ・ **医薬品**使用原因9件、**サプリメント**使用原因6件

### < **意図性**の判断(聴聞会) >

- ・アスリート弁明、立証で資格停止期間が短縮
- ・ **「原因物質の体内経路」の証拠の確保**
- ・アンチ・ドーピング規則への論理的な弁明

アスリート本人の対応困難、規則精通弁護士への支援

## どんな薬や治療方法？ JSPOガイド参照



### 薬の使用及び治療使用特例（TUE）

アスリートには、自身の心身の健康を守る権利、そして治療のために禁止物質や禁止方法を使用しなければならない時、治療使用特例（TUE）を申請する権利があります。

TUEとは「Therapeutic Use Exemptions」のことです。

TUEの要否の確認、取得のための条件や手順について正しく理解しましょう。

SEE MORE



## JADAではサプリ＝違反リスクあり！

### サプリメントは本当に必要？ ～サプリメント使用のリスク～

サプリメントは食品であり、全ての含有成分を表示する法的な義務がありません。そのため、サプリメントに禁止物質が含まれていないという保証はできず、サプリメントによる違反が多発しています。

アスリートは、自身の体内に摂り入れる物に対して全責任があります。

「サプリメント使用が違反につながる可能性がある」という大きなリスクに対して、「サプリメント使用から期待される効果」を客観的に比較し、アスリート自身の責務から、サプリメントの必要性に対する適切な判断が求められます。

クリーンアスリートとしてどうする？



# ユースアスリート向け



## ユースアスリート向け

### <対象>

国内レベルに満たない中学生・高校生年代のジュニア・ユースアスリートなどの育成世代とそのサポートスタッフ(保護者含む)

### <特徴>

- ▶ クリーンでフェアなスポーツに参画することの意義を理解し、スポーツへの関わり方を自身で考え、共有することができる
- ▶ なぜスポーツに統一のルールがあるのか、納得しながら読み進めることができる
- ▶ マンガを活用した導入や、課題を達成するごとにシールを貼ったり、会話をしたり、目的意識や達成感を得ながら読み進めることができる

### ▼ 考えるヒントとなるマンガ



### ▼ チームメイトや家族とも学べるシール



# 国内レベルアスリート向け

18歳未満も対象！



## 国内レベルアスリート向け

### <対象>

国内レベルアスリート\*とそのサポートスタッフ

\*「アスリート・カテゴリー」を必ず確認！

URL: <https://www.realchampion.jp/who/category.html>

※18歳未満でも国内レベルに達したアスリートは本ガイドの配布対象



### <特徴>

- ▶ スポーツの価値・クリーンスポーツを創る強い手として何が出来るか具体的に説明・共有できる
- ▶ サプリメントのリスクやドーピング検査、居場所提出・更新などの手順や自身の権利を具体的に理解し、適切なクリーンスポーツ行動を促す
- ▶ QRコードや逆引き辞典など、必要な情報をすぐに確認できる構成

▼ 知りたいことから調べることができる

### 逆引き辞典

A-Z	Page
ADD (ドーピング検査)	8
ADAMS	44
Athlete Central	44
A-SHIFT (アスリート)	28
DCO (ドーピング検査)	8
DSS	41

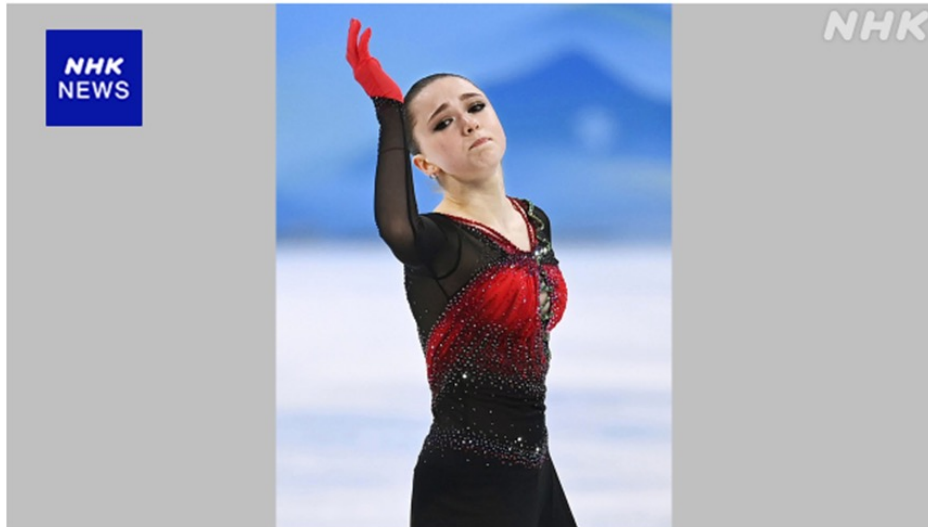
▼ クリーンアスリート・サイトなど関連するサイトへリンクするQRコード



クリーンアスリート・サイトなど  
関連するサイトへリンクするQRコード



# 「スポーツの価値」

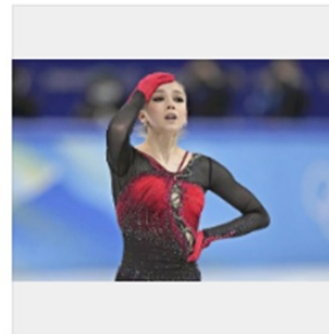


フィギュア ドーピング違反のワリエワ 4年間の資格停止処分に

ワリエワ4年間の資格停止の裁定、IOCバツ八会長「全面的に尊重する」

2/1(木) 20:12 配信 10 100 100 100 100

読者新聞 [オンライン](#)



北京五輪フィギュアスケートに出場したワリエワ（2022年2月7日）=AP

スポーツ仲裁裁判所（CAS）がフィギュアスケート女子のカミラ・ワリエワ（17）（ロシア）に4年間の資格停止処分を科す裁定を下したことについて、国際オリンピック委員会（IOC）のトーマス・バツ八会長は1日、「この決定を全面的に尊重する」と述べた。

【写真】北京五輪、女子フリーの演技で転倒するROCのカミラ・ワリエワ

## 課題「検査の厳格化と選手の権利擁護」

# 【問い】アンチドーピング不正での予防策 を一つずつ挙げてください

① 動機

その行為に対して「犯罪ではない＝致し方ない」、「自分だけでない」、「誰にも迷惑をかけない」などと思うこと。

不正の  
トライアングル

② 機会

③ 正当化

サプリのリスク

# JHAホームページJSPPOスポハラ相談窓口利用



2021 登録証 JAPAN HOCKEY ASSOCIATION

スポーツの場における暴力・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、その他の組織的または個人的な不当な行為等にお気づきの方はご相談ください。  
※通報に関する関係者の情報は守秘義務により守られ、また、通報により不利益な取り扱いをされることは禁止されております。

日本ホッケー協会 通報相談窓口  
TEL:03-6812-9200 E-mail: compliance@japan-hockey.org

スポーツの場における暴力・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、その他の組織的または個人的な不当な行為等にお気づきの方はご相談ください。  
※通報に関する関係者の情報は守秘義務により守られ、また、通報により不利益な取り扱いをされることは禁止されております。

日本ホッケー協会 通報相談窓口  
TEL:03-6812-9200 E-mail: compliance@japan-hockey.org



トップアスリートのための  
暴力・ハラスメント  
相談窓口

ソーシャルメディア (SNS) 等での  
誹謗中傷や写真や映像による  
性的ハラスメントに係る

**相談窓口** 詳しくは  
こちら▶



公益財団法人 日本スポーツ協会

日本全国 × TeamB フェアプレイ宣言!

**NO! スポハラ** **NO! スポハラ**

私たちは、「スポハラ」のないスポーツ界を目指します。

クリーンなスポーツを守る  
アンチ・ドーピング

JADA Japan Anti-Doping Agency



一競技 最終予選大会 (2024/フーンナ) 第2戦結果 [日本 1-1 ドイツ]

女子日本代表「さくらジャパン」(世界ランク=WR11位) は、インド・ランチャーで行われている「第33回 オリンピック競技大会 (2024/パリ) ホッケー競技...」

2024.01.14 さくらジャパン ニュース一覧

男子日本代表 サムライジャパン SAMURAI JAPAN

男子日本代表 サムライジャパン「第33回 オリンピック競技大会 (2024/パリ) ホッケー競技 — 最終予選大会 (2024/バレンシア)」7位決定戦結果 [日本 6-2 ウクライナ] ~今大会7位~

# スポーツ医・科学研究

報告書 No. III 学生アスリートを対象としたアンチ・ドーピング教育プログラム開発のための  
基礎研究

報告書 No. IV スポーツ現場におけるサプリメントの利用状況と活用コンセンサスの作成  
- 第1報 -

## 令和4年度 日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告集

報告書 No. I 学生アスリートを対象としたアンチ・ドーピング教育プログラム開発のための  
基礎研究  
- 第3報 -

これらの結果から、大学生

アスリートが、自身にアンチ・ドーピング知識が備わっていると認識していたとしても、実際の知識は備わっていない可能性が考えられた。とくに、

ドーピング検査を受ける可能性が高い、国民体育大会(以降、国体)等の全国大会レベルにおいては、

主観的な知識と実際の知識とのギャップが存在することで、意図しないドーピングのピットフォールに陥る可能性が高まることが示唆された。

# JOCインテグリティオフィサーと面談2022年

## 委員会構成の基本となる事項

### <面談内容>

#### 1. リスクマネージメント(ハイリッジの法則など)

①監督:人事、②選手:生活、費用負担、金銭感覚、交際詐欺、新人入替、選考等

#### 2. アンチ・ドーピング

①検査未了、②組織罰、③基礎講習受講義務、④サプリ、⑤ICT注意喚起

#### 3. 八百長警戒

①国際スポーツ賭博、②監督も賭博、③反則も対象、④試合中の不自然な流れ

日本人有名メジャーリーガーの通訳逮捕

# 今後の課題 2025年度

- スポーツ・マウスガードSMGの適正使用による外傷の大幅減少
- 漏れのないアンチ・ドーピング教育  
TUE(HJL)とU15
- インテグリティ(不正防止)
- 禁煙とタバコ使用の防止

全国ルール統一研修会資料

# ■2024年判定に関するレビュー ■2025年ルール解釈と重点事項

2025年のスムーズな運用に向けて

2025年2月8日

競技運営部審判部



## 責任と義務（競技規則 2 ページ）

- ホッケー競技に参加する者は、本規則書記載のホッケー競技規則およびその他の情報を知っておかなければならない。そして、本規則書に従って行動することを要求するものである。
- 安全ということを、第一に強調する。試合に関わる人はすべて、自分以外の人々の安全に十分配慮して行動しなければならない。
- アンパイアは、試合をコントロールし、フェアプレイが確実に実行されるようにするという大事な役割を果たす。

# 競技規則の変更（2025年度）



2025年ルールブック改訂・発行無し（6人制も11人制に準じ発行なし）

## ✓ FIHルール変更

上げられたボールの落下地点のプレイヤーへは「ボールに触れた瞬間」から、相手プレイヤーは近づくことができる。（FIH試験的運用、国内2025年度より適用）※説明「競技規則9.10」

✓ FIHインドアホッケールールは改訂なし

2025年も利用します



その他  
ホッケー5  
パラホッケー  
ビーチホッケー

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 2.1 12名以上のプレイヤーがフィールド上にいた場合
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• 12名以上の状況を修正するために時間を停止しなければならない。</li><li>• 試合に大した影響もなくほんのわずかな時間であれば、必ずしも警告を与える必要はない。</li><li>• 人数が増えていたことで試合に大きく影響を及ぼしていたならば、チームのキャプテンに個人的な罰則（カード）が与えられなければならない。</li><li>• 時間が再開されたり、プレイがリスタートされていた場合は、時間停止前に下されていた判定を変えることができない。</li><li>• ペナルティを与えるために時間を停止した時に、反則を犯したチームに対して、カード以外に何も罰則が与えられていなかったならば、相手チームのフリーヒットによって時間とプレイが再開される。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2025年も引き続き留意が必要。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 選手交代時にはビブスを使用するなど工夫が必要。</li><li>• 両アンパイア・リザーブアンパイア、TOは各クォーターの開始時や（一時）退場者が出た場合には、特に注意が必要。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 2.2 GK特権を持つフィールドプレイヤーの廃止（2022年変更）
解説	<p>出場プレイヤー構成は次の2択</p> <p>A. フル装備GK1名と10名のフィールドプレイヤー（FP）</p> <p>B. 11名全員FP（いわゆるパワープレイ）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• パワープレイ時にPCを取られてしまった場合は、フル装備GKと交代することはできず、守備者はGKのヘッドギアを着用できない。PC守備時のFPが着用する防護アイテムのみ着用可能。</li><li>• パワープレイ時にPSを取られてしまった場合は、フル装備GKを守備者として戻すことは可能。</li><li>• 6人制はフル装備GKが必須。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特に混乱なく運用。</li><li>• 観客にとってのわかりにくさの低減化。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2022年より正式ルール化</li></ul>

# 問題 1

PCの判定後、守備側GKがアンパイアに対して、暴言を吐きイエローカードで退場となってしまった。

この場合、正しいものは次の①②のどれ？

①守備側GKと控えのGKが交代し、4名で守備を行う。

②守備側GKと控えのGKが交代し、5名で守備を行う。

## 問題 1 の答え：②

②守備側GKと控えのGKが交代し、5名で守備を行う。

### 【解説】

PC時、守備側が少ない人数で守らなければならない条件は以下の2つ。

- ・ボールがプレイされる前に、守備側プレイヤーがゴールラインやバックラインを超えてしまった場合。
- ・ペナルティコーナークロックの40秒経過の遅延行為による個人的罰則（グリーンカード）が科せられたとき。

項目	試合を行うこと 2.3 PC時の交代について
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 守備側のGKが怪我をするか、退場させられた場合にのみ、その交代が認められる。</li><li>・ 守備側のGKが怪我をするか、退場させられた場合には、ほかのGKかプレイヤーと交代することができる。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特に混乱なく運用。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 継続適用</li><li>・ 守備側のFPの怪我や退場させられた場合は交代できない。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 3 キャプテン（主将）
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• キャプテンが退場となった時は、代替りのキャプテンを指名しなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 原則はキャプテンにカードが出された場合、代替りのキャプテンにキャプテンマークを渡さなければならない。しかしながら、グリーンカードの2分の退場時は代替りのキャプテンの指名を黙認している状況。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 国際大会においても国内と同様に、キャプテンのグリーンカードによる一時退場時には、代替りのキャプテンの指名を黙認している状況であることから、このような状況においてはすぐに罰則としないこととする。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 4 プレイヤーの服装と装備
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• 医学的な理由があれば、試合時間中ずっと、顔に密着するようなフェイスマスク、柔らかい頭部保護用のヘッドカバーや目を保護するためのプラスチックゴーグルの着用が許される。フェイスマスクは、表面がなめらかなもので、色は透明か白、ほかの色は単色であればよい。（ゴーグルは、たとえば周囲が柔らかい素材でカバーされ、プラスチックのレンズのものである。）医学的理由を認める場合とは：装具を着用すればコンディションを整えてプレイすることが可能になるということが理解でき、そのことを大会責任者（大会のTD等）が許可した場合である。（チームは、その明確な理由を大会責任者に説明すること）</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特に問題なく運用。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大会責任者が責任を持って判断、許可すること。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 4.2 PC時の守備側選手の防具の着用可能範囲の明確化（2022年変更、2024年一部追加）
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>守備者がPC用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、23mのエリア内にいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、23mのエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。</li><li>守備者はペナルティコーナーの終了後の再開がビハインドヒットであった場合、すべてのPC用防具を取外した後にビハインドヒットを行うことができる。これは、ビハインドヒットとなった場合、守備者にはPC用防具を取外す適切な機会があったものとみなされるからである。但し、PC用防具の取外しに不要に時間を消費してはならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2022年新規適用（2024年一部追加）</li><li>特に問題なく運用</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li><b>プレイに影響のある上記の違反に対しては、反対側チームにフリーヒットを与え、度重なる違反等状況によってはカード提示の個人的罰則を与える。</b></li></ul>

6人制は適用範囲を自陣エリアとします。（「23m」を「自陣」と読み替える）

## 問題 2

**GKのヘッドギアが試合中に外れて落ちてしまった。**

**GKがヘッドギア無しの状態で、守備を続けた場合はどうなるのか？**

## 問題2の答え

項目	試合を行うこと 4.4 プレイヤーの服装と準備
解説	<p>競技規則4.4</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• GKは少なくともヘッドギア、レガード、キッカーズから構成される防具を身につけなければならないが、PSの攻撃を行う時に限り、ヘッドギアとハンドプロテクターのみ、外しても構わない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• GKの装具着用はGKの保護が目的であり、罰するものではないことを理解する。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• GKがヘッドギア無しの状態でプレイを続けることは基本的に認められず、そのままボールを奪いにいくなどの行為はPCとなる。（ヘッドギアが外れるのは意図としない反則のため。）ボールから一旦離れた状態にも関わらず、そのままプレイを続けていればPSとなる。（ヘッドギアを再び装着するだけの時間があるにも関わらずプレイを続けるのは、意図した反則とみなすため。）</li><li>• 落ちているヘッドギアにボールが当たった場合、サークル外であればフリーヒット、サークル内であればPC、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられればPSとなる。</li><li>• 審判員はGKのヘッドギアが外れた際、試合の状況を鑑み、笛を吹く（罰則を与える）のかアドバンテージを適用するのか適切な判断するように心掛けることが重要。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 5.1 終了間際の判定
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• アンパイアが何らかの判定を下す間際（直前）にクォーターが終了となってしまっても、アンパイアは判定を行うことができる。</li><li>• 終了間際でのアンパイアの判定後、クォーターが終了となってしまっても、アンパイアは相手アンパイアとの確認等を通じて判定を変更することができる。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特に問題なく適用</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 終了間際の重要な判定を正確に行うための運用であることを競技役員は意識する。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	6.5 試合の開始と再開：ブリーについて（2022年変更）
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペナルティコーナー実施中、ブリーが与えられた場合ペナルティコーナーが再び与えられる。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年変更箇所</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>PC実施中にけがやプレイに関係無い事象が発生し、反則も起きていないのに試合を中断した場面等が想定される。</li> <li>この項目の追加に伴い、競技規則13.5のPC完遂条件の一つが削除となっている。（重複する内容のため）</li> <li>例えばPC実施中、守備者のスティックに当たったボールを（足に当たったとして）PCと判定した場合、ブリーではなくPCが再び与えられることとなる。</li> </ul>
項目	7.4c 守備側プレイヤーが、ボールを故意にバックラインを超えるようにプレイして、なおかつそれが得点とならなかった場合
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンパイアは、PCを与えることを躊躇してはならない。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンパイアの解釈にばらつきがみられる。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続適用</li> <li>SO時との違いに留意する。</li> </ul>

## 問題 3

PC実施中、クォーター（試合）終了のホーンが鳴った。その後プレイを続け、守備側プレイヤーが故意にバックラインにボールを出した。ただしバックラインからボールが出た場所は、サークルから5 m以上離れたところである。この場合はPC？それともPCとならずクォーター（試合）終了となるのか？

答えはのちほど…

ヒント：競技規則13.5 PC完遂条件

## 問題 4

サークル内で攻撃側のプレイヤーが、スティックを握った左手の甲の部分でボールをゴールへ流し込んだ。

この場合は得点となる？ ならない？

## 問題4の答え：得点となる。

項目	試合を行うこと 規則8 得点となる条件
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>サークル内で攻撃側プレイヤーによってボールがプレイされ、そのボールがサークル外に出ることなく、クロスバーの下でゴールラインを完全に通過した場合に得点が認められる。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>アンパイアの解釈に若干のばらつきがあるように思われる。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>競技規則9.11（たとえボールがスティックを持っている手に当たったとしても、その手に当たらなければスティックに当たったであろうと判断される場合は、反則とはならない。）が適用される。</li></ul>

項目	試合を行うこと 規則9.5 バックスティック
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>プレイヤーは、スティックの裏側を使ってボールをプレイしてはならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>試合中においてまだまだ散見される。</li><li>2025年も引き続き留意が必要。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>アンパイアはスティックの裏側を使ってのプレイが発生した場合、躊躇なく判定できるように注視する。</li></ul>

## 競技規則9.10 上げられたボールの処理

### 【変更前】

上げられたボールが落下してくる時、そのボールを受けたり、コントロールしたり、グラウンド上に戻そうとしたりしているプレイヤーがいる時は、相手側はそのプレイヤーから5 m以内の距離に近づいてはならない。

### 【変更点】

上げられたボールを受け取るプレイヤーに対して、相手側は**そのプレイヤーがボールに触れる**まで5m以内に近づいてはならない。相手プレイヤーのプレイ可能範囲外で安全に行われる限り、5mより離れた地点から近づいてインターセプトすることができる。

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 9.10 上げられたボールの処理
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>上げられたボールが落下してくる時、そのボールを受け取るプレイヤーが<b>ボールに触れるまで</b>、相手側プレイヤーはそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。</li> <li>※この変更は、<b>上げられたボールを受け取る側がボールに触れた瞬間に、相手側がプレーを可能にするためのもの</b>。特に現行のルールでは、サークル内においてボールがまだグラウンド上にない場合、守備側はシュートに対して何もできない状況だったが、今回のルール改正でそれを可能にするものである。</li> <li>落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、選手同士がプレー可能範囲内で無いことかつ安全にプレーできる状態であること</li> <li>落下点に位置取りしている選手が明確でない場合は、ボールを上げたチームの相手側選手にレシーブ権がある。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技規則の変更部分にプレイヤー、アンパイア共に（特に）留意する。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、選手同士がプレー可能範囲内に近づかないことと、インターセプト後もプレー可能範囲にならないこと（=安全にプレーできること）が条件となる。</li> <li>23mエリア内でレシーブしようとして明確に待っている攻撃選手に対し、守備選手が5m以内に故意に近づいていき、相手選手のプレー可能な範囲でプレーしようとする行為は、PCとなる。同様の解釈でサークル内の場合はPSとなる。</li> <li><b>個人的罰則（カード）も状況に応じ適用する。</b></li> </ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	規則9.13 スライディングタックル
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>相手プレイヤーにスライディングタックルを行い、危険であったり、危険を誘発したりする結果をもたらした場合は、故意の反則として個人的罰則を適用する。</li><li>相手プレイヤーの身体、スティックに自分の身体やスティックが触れた場合は当然のこと、相手プレイヤーが接触による危険性を回避するような動作を取るようになった場合に、個人的罰則を適用する。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>スライディングタックルの危険性の認識は浸透しているものの、アンパイアが判定に躊躇する場面が何度か見受けられた。</li><li>2025年も引き続き留意が必要。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>スライディングタックルの結果、相手プレイヤーの身体やスティックに触れていた場合、個人的罰則はイエローカードによる10分間の退場とする。2回目はレッドカードとする。</li><li>スリップ等故意で無いが、結果的にスライディングタックルの形になり、相手プレイヤーの怪我を誘因してしまった場合も個人的罰則を適用する。ただし、状況に応じてアンパイアは罰則内容を変更して適用する。</li><li>スライディングプレイが、必ずしもすべて個人的罰則（カード）の対象とはなるわけではないことも理解しておくこと。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 12.4 サークル内に転がっている守備側用具類にボールが当たって、その結果、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられたならば、PSとなる。
解説	PSの成立条件は2つ ✓ 守備側のプレイヤーによるサークル内の反則で、そのことによりおそらく入っていたと思われる得点が妨げられた場合。 ✓ 守備側プレイヤーによるサークル内での故意の反則で、攻撃側のプレイヤーが実際にボールを保持したり、保持しようとしていたりしているのを妨げられた場合。 • ゴールライン直前でシュートボールをFPが足で防いだ場合と同じ解釈でPSとする。 • サークル内で転がっている守備側プレイヤーの防具類にボールがあたった場合（上記除く）は、PCとする。（競技規則試合を行うこと9.16）
適用状況	• 2020年～2024年での適用事例報告なし
2025年の適用	• 継続適用

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 13.1a FHの再開地点（反則の起こった近い所から行われる。）
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>「近い所」という表現は、反則が起こった場所からプレー可能な範囲内のことで、これは攻撃側があまり有利になりすぎないように意図するものである。</li> <li>フリーヒットが行われる場所は、23mエリア内では、さらに正確でなければならない。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだまだアンパイアの判定にばらつきがみられ、ゲームの流れを止めてしまう場面がある。2025年も引き続き留意が必要。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>23mエリア内ではより厳しく、23mエリア外であれば、攻撃側があまり有利（守備側があまり不利）になりすぎないようにする。ただし23mエリア外であれば、「近い所」に拘り過ぎてゲームの流れを止めないように留意することが必要。</li> </ul>
項目	13.1b サークル内で守備側チームに与えられたFHの再開地点
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>サークル内で守備側チームに与えられたFHの再開は、サークル内のどこから始めてもよい。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>適用が完全に浸透していない。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続適用</li> <li>プレイヤーにはルール理解促進と上手な活用を期待</li> </ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	<b>試合を行うこと</b> <b>13.2f</b> サークル付近の攻撃側FHで、攻撃側が即座にリスタートしなかった場合には、守備側選手は再開地点から5m以上離れなければならない。
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>サークル付近の攻撃側FHが即座にドリブル（セルフパス）でリスタートされた場合、リスタート時点でサークル内にいる守備プレイヤーは、ドリブルする攻撃プレイヤーを追っていくことができる。ただし、ボールが5m動かされるまでその攻撃プレイヤーに影響を与える行為をしてはならない。</li><li>攻撃側FHが即座に開始されなかった場合は、たとえサークル内にいたとしても、守備側プレイヤーはリスタート地点から5m以上離れなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>概ね浸透してきている。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>FHの再開まで時間的余裕があるのに、守備側プレイヤーがリスタート地点から5m（6人制は4m）以上離れようとするのは反則となることに留意してアンパイアは注意を促す。（状況によっては反則とする）</li></ul>

## 問題5 PC完遂（解除）の要件

- 1.得点が入ったとき
- 2.守備側チームに・・・
- 3.ボールがサークルから・・・
- 4.ボールがバックラインから  
出て・・・
- 5.守備側選手が反則で・・・
- 6.・・・となったとき

# 項目ごとの解説と2025年の適用



## 問題3の答え：クォーター（試合）終了

## 問題5の答え：以下解説の①～⑥

項目	13.3 PC時は試合時間を停止
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>PC判定時からPC開始までの最大40秒間試合時間を停止する。（40秒シュートクロックのカウント開始）</li><li>アンパイアがPC開始の笛を吹いた瞬間に試合時間の計時を再開。</li><li>連続して行うPCでは試合時間は停止するが、40秒間を待たずに選手の準備ができ次第再開する。</li><li>PC完遂（PC状態解除）条件は下記（規則13.5）。下記以外でPCとなった場合は連続して行うPCとして扱う。 ①得点 ②守備側FH ③ボールがサークルから5m以上離れた時 ④ボールがバックラインから出てPCでないとき ⑤守備側プレイヤーの反則でPCでないとき ⑥PS</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>概ね浸透してきている。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>連続して行うPCでは、40秒間がプレイヤーに与えられていることではなく、速やかに再開しなければならないことを認識し、アンパイアはプレイヤーに協力を促す。（円陣は認められない）</li><li>アンパイアの注意にも関わらず時間をかけていると判断される場合は、遅延行為の反則を適用する。（カード提示）</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	規則13.3 PC時のシュートコースへの走り込み
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>守備側プレイヤーが、スティックでプレイしようとする意志がなくシュートコースやシュートしようとしているプレイヤーに対して走り込んできたということが明確に判断される場合は、その行為は危険と見なして罰せられなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>解釈に対して2021年シーズン中に質問があり、かつ解釈にばらつきが見られた。</li><li>2024年までの適用事例報告はないが、2025年も引き続き留意する。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>走り込むプレイヤーがシュートしようとするプレイヤーを見ながら、スティックのプレー可能面をボールに対して正対させている場合は、プレイしようとする意思があると見なす。</li><li>シュートしたプレイヤーに突進する走り方は危険な行為として、当該プレイヤーにカード提示による追加的罰則を与える。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 規則13.3 PC時フリックやタッチシュート及びスクープによるシュート及びヒットによる2打目以降のシュートにおいては、危険でない限りボールはいかなる高さにも上がってもかまわない。
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>1打目のフリックシュートを打ち損じてしまった（ボールは危険な高さにも上がることなく、転がっている状況）ボールを拾って、攻撃側がヒットシュートし、ボードを超えた高さでゴールに入った場合、得点となる。</li><li>シュート（ホッケー用語「競技規則13ページ」とは？攻撃側のプレイヤーによって、サークル内で得点を得ようとするためにゴールに向けてボールをプレーする動作のこと。ボールがゴールを外れたとしても、もしもそのプレイヤーの意識がゴールに向かってシュートしようとしていたならば、それは「シュート」である。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年での適用事例報告なし</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>継続適用</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 規則13.3 PC時のフリックシュートの危険性
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>PC実施中において、最初にシュートされたボールが5m以内にいる守備側プレイヤーの膝から下に当たった場合は、もう一度PCが与えられなければならないし、ボールが5m以内において通常の構え方で立っている守備側プレイヤーの膝もしくは膝より上に当たった場合は、そのシュートは危険とみなして、守備側チームにフリーヒットが与えられなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>解釈に対して2021年シーズン中に質問があり、かつ判定にばらつきが見られた。</li><li>2024年は概ね問題なく適用された。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>グラウンドに膝をついていたり、倒れているような状態で無い限り、原則として通常の構え方として判定する。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	<p>試合を行うこと</p> <p><b>13.5 PC完遂（PC状態の解除）要件で「ブリー」の項の削除（2022年は「ボールがサークルから2度目に外に出た時」が削除）</b></p>
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PC時のプレイヤー交代制限が解除される（=プレイヤー交代が可能となる）条件は下記のとおり。</li> <li>①得点 ②守備側FH ③ボールがサークルから5m以上離れた時</li> <li>④ボールがバックラインから出てPCでないとき</li> <li>⑤守備側プレイヤーの反則でPCでないとき ⑥PS</li> <li>• 上記の条件にならずに再度PCとなった場合は連続して行われるPCとしてプレイヤー交代制限は継続。</li> <li>• ベンチに戻るプレイヤーが先にベンチに戻っておくことは可能。代わりに出場するプレイヤーはテクニカルテーブル前で待機している状態。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2024年も概ね問題なく適用された。</li> <li>• 引き続き2025年も留意が必要。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PC時のプレイヤー交代に手順不適合な事例が発生しないようTOは留意する。</li> <li>• 上記③に該当する時、ボールが5m以上離れたかどうか微妙と思われる場合には、アンパイアはPC制限解除となるゼスチャーをできるだけ行うこととする。</li> </ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	13.7.d ペナルティストロークについて
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>PSを行うプレイヤーは、ストロークを開始する前にボールの後方で、しかもボールに対してプレイ可能な範囲に立たなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年ボールを跨いで実施した事例報告あり。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>そのままストロークが行われ得点が入った場合は、規則13.9.eが適用され、守備側にフリーヒットが与えられる。</li></ul>

## 問題 6

PC実施中、以下のそれぞれについて、どのような判定となるのか？またそのPCの再開方法は？

- ① 攻撃側が走りながら「球出し」をし、両足ともフィールド内に入ってしまった場合。
- ② 攻撃側の「球出し」がフェイントをした場合
- ③ 守備側が2名以上が、ほぼ同時にフライングをした場合
- ④ 守備側GKがフライングをした場合
- ⑤ 攻撃側がフライングをした場合
- ⑥ 守備側GKが遅延行為により、個人的罰則（カード）が与えられた場合
- ⑦ 攻撃側が遅延行為により、個人的罰則（カード）が与えられた場合

## 問題 6 の答え

- ①規則13.6a：PCアゲイン
- ②規則13.6b：「球出し」プレイヤーがセンターラインに戻る。代わりの球出しプレイヤーはサークル付近にいるプレイヤーが行い、PCアゲイン。
- ③ほぼ同時であってもフライングは1名のみ。フライングのプレイヤーはセンターラインへ戻る。PCアゲイン。
- ④規則13.6d：守備側チームはGKに代わり、センターラインに戻るプレイヤーを指名する。PCアゲイン。
- ⑤規則13.6e：「球出し」プレイヤーがセンターラインに戻る。PCアゲイン。
- ⑥競技運営規定 付属書 1.5.5：個人的罰則（カード）は他の守備側プレイヤーに科す。（守備側チームが罰則を受けるプレイヤーを選択できる。）PC。
- ⑦競技運営規定 付属書 1.5.6：個人的罰則（カード）が与えられたプレイヤーを除き、PC実施。

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 規則13.6a PC時の球出し
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>バックラインからプッシュまたはヒットによる「球出し」をするプレイヤーは、少なくとも一方の足をフィールドの外に出しておかなければならない。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年も走りながら「球出し」をする際、両足ともフィールドの中に入っている状況が時々見られた。</li><li>2025年も引き続き留意が必要。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>アンパイアは特に走りながら「球出し」をするプレイヤーには注視し、両足ともに入っているようであれば、PCアゲインとする。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 13.6c・d PC時の守備側フライング、遅延行為
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• PC時の守備プレイヤーのフライングでは、当該プレイヤー（GKの場合は代わりのFP）がセンターラインに戻り、その際のPC守備者は4名以下に制限される。</li><li>• 40秒経過しても準備ができていない守備側プレイヤーは、カードが提示される。その際のPC守備者は4名以下に制限される。（GKの場合は代わりのFPにカードを提示）</li><li>• 連続して実施されるPCで制限は継続する。（=PC状態解除で制限も解除）</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 連続となるPCで5名での守備を行いやすい。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• 反対側アンパイアが守備人数に特に留意する。</li><li>• 万が一、上記に該当する状況で5名で守備を行ったとしても、PC開始までの指摘がない限り、そのままプレイを続行し、結果の修正は行わない。</li></ul>

- ✓ 6人制では、40秒クロックはなく、準備ができ次第速やかにPCを再開する。
- ✓ 6人制では「5名」を「4名」に読み替える。

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	試合を行うこと 13.6e PC時の攻撃側フライングでは、球出し選手がセンターラインまで戻る。
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>PC時の攻撃側プレイヤーのフライングでは、球出しプレイヤーがセンターラインに戻る。代替りの球出しプレイヤーはサークル付近にいるプレイヤーが行う。(PCアゲイン)</li><li>球出しプレイヤーのフェイントも同じ対応(PCアゲイン)</li><li>連続して行うPC時は当該プレイヤーは再びセンターラインに戻る。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2025年も引き続き留意が必要。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>フライング発生時は、球出しプレイヤーがセンターラインに戻ることを反対側アンパイアが特に注意する。</li><li>センターラインに戻る球出しプレイヤーの代わりにサークル付近にいないプレイヤーを呼んで行おうとするチームに対し、アンパイアは注意を促す。注意が守られない場合は、攻撃側チームの遅延行為を適用し、当該プレイヤーにカードを提示し、PCで再開する。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	競技運営規定 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目 5.5 ペナルティコーナークロック
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅延行為による個人的罰則が守備側プレイヤーに与えられた場合は、そのPCおよびその後の連続して実施されるPCは、1人少ない人数で守ることになる。もし当該プレイヤーが守備側のGKの場合は、そのPCは1人少ない人数で守ることになるが、個人的罰則は、他の守備側プレイヤーに科す（守備側チームが罰則を受けるプレイヤーを守備についているFPの中から選択できる）。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年での適用事例報告なし。2025年も引き続き留意が必要。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>GKに個人的罰則が与えられ、他の守備側プレイヤーを選択し、個人的罰則が科せられた場合、試合記録上は他の守備側プレイヤーの記録となる。</li> </ul>

項目	競技運営規定 付属書1 5.6 ペナルティコーナークロック
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅延行為による個人的罰則が攻撃側のプレイヤーに与えられても、そのプレイヤーが除かれた状態で、PCは実施される。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年も引き続き留意が必要。</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>決して守備側のフリーヒットとはならないことに留意する。</li> </ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	競技運営規程 付属書3 シュートアウト戦 12g.SO時のフライングの対応
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>• シューター又はGK又は守備を行うプレイヤーが、アンパイアが笛を吹く前にプレイを開始した場合、シュートアウトはやり直しとなる。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 明確化して記載。実運用は変更なし。</li></ul>
2024年 の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>• SO時の故意のフライングはグリーンカードによる警告（退場とはならない）。</li><li>• 同一チーム内の2回目（1回目と別の選手でも）の故意のフライングはイエローカード提示により退場処分とする。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	競技運営規則付属書3 シュートアウト戦 12.h.v GKまたは守備するプレイヤーの故意の反則
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>GKまたは守備するプレイヤーがサークル<u>内外</u>で故意の反則をした場合は、PSが与えられる。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年での適用事例報告なし</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>GKまたは守備するプレイヤーがサークル内外で故意でない反則をした場合は、同じプレイヤーで再度SOが行われる。</li></ul>

項目	競技運営規則付属書3 シュートアウト戦 12.h.vi GKまたは守備するプレイヤーが故意にバックラインを超えるようにボールをプレイすること
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>GKまたは守備するプレイヤーが故意にバックラインにボールを出すことは許される。（再びSOやPSとはならない。）</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>概ね浸透している。</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>通常の試合時とSO時に故意にバックラインを超えるようにプレイすることの違いを認識すること。</li></ul>

# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	競技運営規則付属書3 シュートアウト戦 13 PSが与えられた時
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式試合記録に記載されているプレイヤーがPSの攻撃または守備を行うことができる。（ただし退場処分となっているプレイヤーを除く。）</li> <li>PSが与えられてから完遂するまでの間に、スティックを交換してはならない。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題なく適用</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンパイア・TOともに留意する。</li> </ul>
項目	競技運営規程付属書3 シュートアウト戦 16 SO時にイエローカードまたはレッドカードが掲示（退場）された場合
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃選手の場合は、当該攻撃は不成功となり、その後の当該選手の攻撃も自動的に不成功となる。</li> <li>守備選手の場合は、5名の攻撃側選手から1名を選んで守備する選手とすることができ、その際は（希望があれば）GK装具を装着する時間を与える。</li> </ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年適用事例報告なし</li> </ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンカードは警告で退場とはならないことに留意する。</li> </ul>

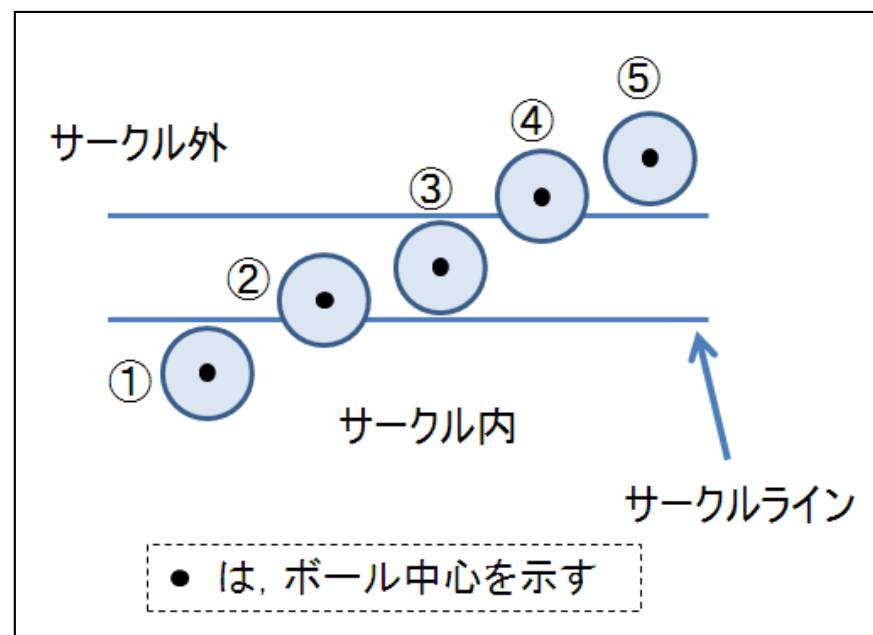
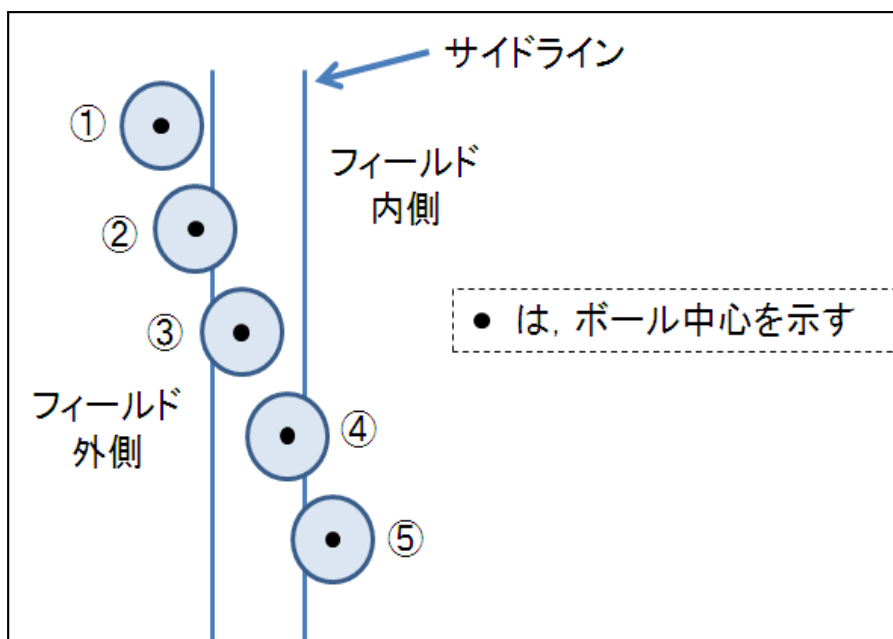
# 項目ごとの解説と2025年の適用



項目	競技運営規程付属書3 シュートアウト戦 17～19 SO時にプレイ不能となった場合
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>攻撃選手の場合は、退場処分となっている選手以外の公式試合記録に記載されている選手の中から交代することができる。</li><li>守備選手の場合は、退場処分となっている選手以外の公式試合記録に記載されている選手の中から交代することができる。5名の攻撃側選手から1名を選んで守備する選手とすることもでき、その際は（希望があれば）GK装具を装着する時間を与える。</li></ul>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"><li>2024年適用事例報告なし</li></ul>
2025年の適用	<ul style="list-style-type: none"><li>プレイ不能となり交代された選手は、それ以降のSOに参加できないことに留意する。</li></ul>

# 問題7 イン、アウトの境界線

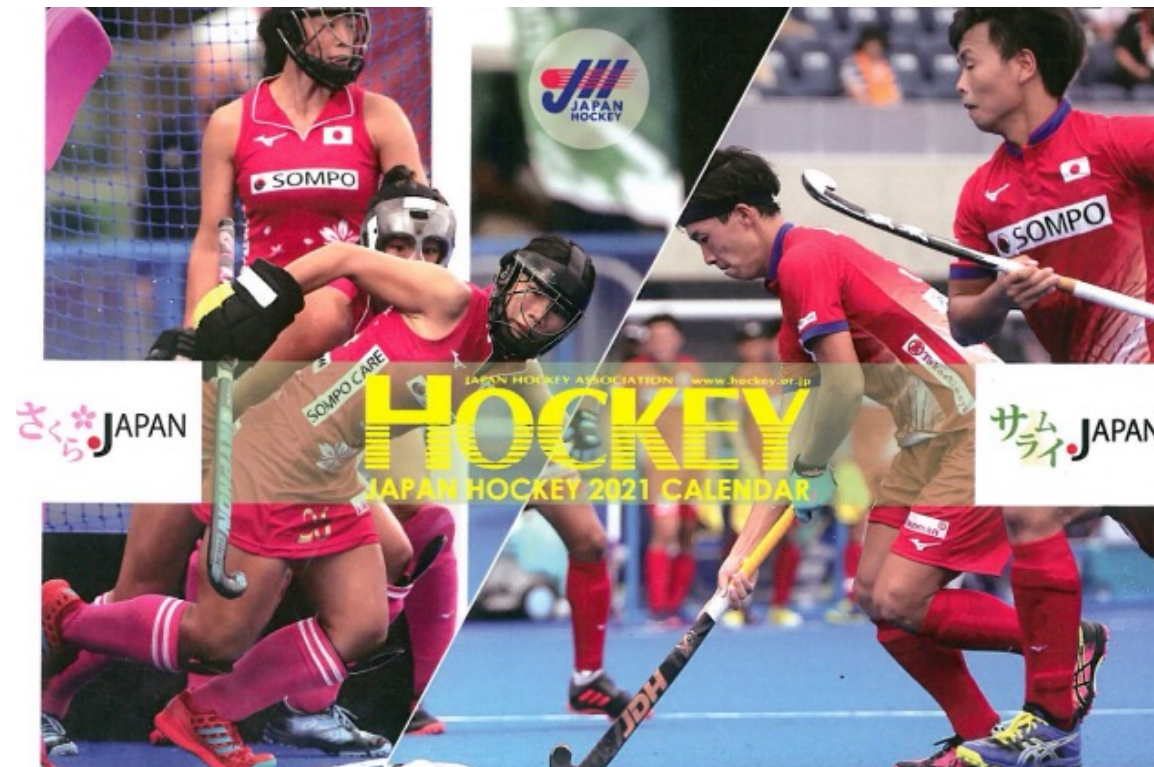
どこからイン？ アウト？



問題7の答えは  
もう必要ありませんよね…

# ルールは何のためにあるの？

- 誰もが安全にゲームを行うため
- 誰もが同じ理解でプレイをして楽しむため
- 誰もが同じ理解でゲームを観て楽しむため



# (参考)

## 本文書における略語

略語	意味
PC	ペナルティコーナー
PS	ペナルティストローク
FH	フリーヒット
FP	フィールドプレイヤー
GK	ゴールキーパー
SO	シュートアウト
TO	テクニカルオフィサー
TD	テクニカルデリゲート

## 2025年度 国内競技会 主催・共催計画

大会名	大会回数	期間	主管協会・連盟	会場	主催・共催
高円宮杯2025ホッケー日本リーグ(さくらリーグ)	第29回	4月～12月	ホッケー ジャパンリーグ	・駿河台大学ホッケー場・山梨学院ホッケースタジアム・立命館OIGフィールド ・コカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアム ・川崎重工ホッケースタジアム ・今市青少年スポーツセンター人工芝競技場 ・大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ) ・赤磐市熊山運動公園多目的広場	共催
高円宮杯2025ホッケー日本リーグ(サムライリーグ)	第24回	4月～12月	ホッケー ジャパンリーグ	・越前町富朝日総合運動場・川崎重工ホッケースタジアム ・今市青少年スポーツセンター人工芝競技場・OSPホッケースタジアム ・山梨学院ホッケースタジアム・阿須運動公園ホッケー場 ・立命館OIGフィールド・大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ) ・駿河台大学ホッケー場・三成公園ホッケー場 ・小矢部ホッケーフィールドby三井アウトレットパーク	共催
社会人女子プレミアムカップホッケー	第2回	7月～10月	各開催地協会	・大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ) ・川崎重工ホッケースタジアム ・コカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアム	共催
全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦	第44回	7月10日(木)～7月13日(日)	関西学連	立命館OIGフィールド 親里ホッケー場	主催
全国高等学校ホッケー選手権大会	男子第88回 女子第67回	8月1日(金)～8月6日(水)	鳥取	鳥取県立八頭高等学校ホッケー場(W) ヤマスポーツパーク(天然芝3面)	共催
全日本中学生ホッケー選手権大会	第55回	8月15日(金)～8月18日(月)	同大会実行委員会	男子: 綾川町ふれあい運動公園 女子: 松前町国体記念ホッケー公園ホッケー場	主催
全日本社会人ホッケー選手権大会	男子第67回 女子第47回	9月6日(土)～9月10日(水)	青森	三沢高等学校グラウンド 六ヶ所村内子内農山村広場多目的広場	主催
全国スポーツ少年団ホッケー交流大会	第48回	9月13日(土)～9月15日(月・祝)	東京	大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ)	共催
全日本マスターズホッケー大会	第23回	9月20日(土)～9月21日(日)	富山	小矢部ホッケーフィールド by 三井アウトレットパーク 小矢部市野外運動広場	主催
国民スポーツ大会ホッケー競技	第79回	10月1日(水)～10月5日(日)	滋賀	OSPホッケースタジアム 米原市伊吹第1グラウンド	共催
全日本中学生都道府県対抗 11人制ホッケー選手権大会	第26回	10月25日(土)～10月26日(日)	同大会実行委員会	福井県立ホッケー場 越前町富朝日総合運動場	主催
全日本学生ホッケー選手権大会	男子第74回 女子第47回	10月30日(木)～11月3日(月・祝)	関東学連	大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ)	主催
全日本女子ホッケー選手権大会 出場プレーオフ	第3回	11月上旬	未定		共催
マスターズホッケー JAPAN CUP	第6回	11月 または 12月	東京	大井ホッケー競技場(メインピッチ・サブピッチ)	主催
全日本女子ホッケー選手権大会	第86回	11月21日(金)～11月24日(月・祝) (女子: NHKによるテレビ放映)	未定		主催
全日本男子ホッケー選手権大会	第99回				主催
全国高等学校選抜ホッケー大会	第57回	12月19日(金)～12月24日(水)	岐阜高体連	川崎重工ホッケースタジアム 岐阜各務野高等学校ホッケー場	共催

※期間は競技実施期間(開会式・監督主将会議の期日は含まない)

# 質問・要望と回答



<b>質問 1</b>	P C 球出しのボールがサークル内で止まり、そのボールを攻撃側選手がゴールに向かってヒットを打った。そのボールが守備側選手の足に当たった。サークルからボールが出ていないためゴールにはならないシュートになるが、ボールが危険でない限りはP Cのアゲインでいいのでしょうか。
<b>回答 1</b>	ご理解の通りで問題ございません。ボールがサークルの外に一度出ない限りは、ボールがゴールラインを超えても、ゴールが認められないだけでありその他のルールの適用は通常と何ら違いはございません。

質問 2	キャプテンにグリーンカードが出され2分間退場中にチームの責任者としてイエローカード（プレイヤーが規定より多い等）が出された場合、退場時間は2分+5分になるのでしょうか。それともイエローカードが提示されてから5分または10分になりますか？
回答 2	競技部の説明でご説明差し上げた通り、最初のカードの退場時間完了後、次のカードの時間の計測となりますので、ご質問いただいた例では、グリーンカードの2分経過後、イエローカードの退場時間の計測が開始されます。

<b>質問 3</b>	<p>チームからリファール権の要求があったものの、チームリファールを行使する特段の理由が「明らかに」見当たらず（或いは、チームからのリクエストの内容が明確でなく）、実質的には、当初判定後の相手チームのプレーを、意図的に阻止するためのリファール権の行使であったと解釈できる場合（例：サークル内でのFHD後のカウンタープレーを阻止するため、リファールを行使する理由が明確でない、または、明らかにFHDの判定を覆す理由がないことが明白であるにもかかわらず、意図的に行使しようとする行為）、ブレイクダウンの一種として、カードを適用することは考えられますか。画一的に判断するものではないと理解しますが、先の男子全日本選手権では類似の事例が見られたため、良い機会と思い質問しました。ご見解があれば頂戴できると幸いです。</p>
<b>回答 3</b>	<p>リファール権がある限りは、ご指摘の行為はブレイクダウンとみなすことは難しく、カードを適用することは難しいと考えております。外から見て明確だと思われても、選手はプレーの中で何かを信じてリファールをしている可能性を捨てることは出来ないと考えております。</p>

# 要望と回答



要望 1	映像を活用し、チームと競技役員でケースディスカッションを行って頂けると幸いです。
要望 1	昨年と同様に本年も研修会の中で実施させていただきました。具体的なタイミングやご希望の内容等ございましたら改めて競技運営部までご連絡いただければと思います。大会前のブリーフィング等での実施機会をできるだけ増やしていきたいと思います。

<b>要望 2</b>	夏場に大会が集中しており、また、競技役員不足もあり一部への負荷がかかっているように思われます。スポーツ少年団や中学生大会において、帯同審判制の導入などを検討して頂けないでしょうか。また、ゆくゆくはインターハイについての導入なども視野に検討をお願い致します。
<b>要望 2</b>	ご指摘ありがとうございます。2025年度の競技運営規程にて帯同審判制が可能な形に変更をしております。実際の運用については各大会の実行委員会等にてご検討いただければと思います。

要望3	TO判断でピアス等を許可しているケースが有ります。危険性を考えて禁止にしていたはずですが許可にするならするで、ハッキリ決めて決定して頂きたい。国際では・・・はいつでも良いので。
要望3	数年前より、一律での装飾品に関する規制は多様性等の観点から撤廃しております。 競技運営規程 6.9 フィールド上のプレイヤーは受信装置を装着または使用してはならない。また、TOに危険と判断されるものを装着してはならない。

要望 4	TD、TO、ジャッジのパフォーマンスが統一されていません。特にTOのポジショニング、ジャッジとの連携が不十分です。これは、大会におけるフィードバックが無いと、改善点が見いだせないままになっているからではないでしょうか？
要望 4	ご指摘ありがとうございます。各大会においてTDより各競技役員に対して何らかの形でフィードバックを必ず行うように指導してまいります。また、競技役員向けの講習会の内容、資料等について競技運営部迄フィードバックいただければ反映させていただきたいと思っております。

# 要望と回答



要望 5	TD、UMの評価をTOやアンパイアがする逆評価システムがFIHで始まりました。TDやUMの資質や技能向上のため、今後の導入を御検討ください。
要望 5	ご要望ありがとうございます。FIHの動向等見定めながら検討を行わせていただきます。

<b>要望 6</b>	<p>今年度は試合終了後に「質問」と称してアンパイアに判定について詰め寄る場面を何度も目にしました。その間にUMが介入してアンパイアを守るべきですが、そうではない事もありました。一方で、地方の学生リーグでは、運営が学生であるため、チームスタッフが若手アンパイアに対して誹謗中傷、判定に対する一方的な批判、人格否定に近い言葉を投げかけることもありました。周囲が学生ばかりなので、「大人」であるべきチームスタッフを止めることもできず、UMも配属されず、TOもアンパイアを守る事ができない状況があります。年齢という優位性を濫用するこのような行為は、一生懸命頑張って吹こうとする若手アンパイアを潰す行為です。「昔はもっとひどかった・・・」という方もおられますが、このような行為は「昔」ではなく、「現在」起こっている事であり、対象となる30歳未満の若手アンパイアは厳しい言葉を浴びせられて教育された世代ではありません。そうなると、心が折れてしまいアンパイアを断念する事態になってしまいます。10代や20代前半のアンパイアは経験が浅く、失敗も多くあるかと思えます。それに対して罵声を浴びせたところで何も改善されません。選手、チームスタッフ、競技役員がお互いに尊重し、批判ではなく改善点を見出し、紳士的に話し合い双方が向上する姿勢と場が今後必要かと思えます。</p>
<b>要望 6</b>	<p>ご指摘ありがとうございます。スポーツを行う上で全ての関係者がお互いにリスペクトすることは非常に大切なポイントと理解しております。一方で利害の相違がある場合、当事者同士の間では非常に難しい部分も発生することも理解しております。そのような状況に対応するため、2018年の通達にて全ての大会・試合においてTD/UMの配置を推奨しておりますので、もしTD/UMを配置していない大会がございましたら、大会の実行委員会等に配置の要望を挙げていただければと思います。</p>

<p>要望7</p>	<p>・HJLのビデオレビュー制度について チーム内でのルール理解促進のため、またチーム・選手が持っているルールに対する認識・解釈を審判やHJLをはじめとした関係者へ広く共有することにより、お互いの相互理解が深まると思い、積極的に制度を活用し事例を提出した。しかし、回答の共有が数ヶ月後という遅さであった。 この制度運用はタイムリーでなければ効果を発揮しない。チームはルールに対する疑問、ジャッジに対する疑念を抱えたまま数ヶ月を過ごすことになる。チームのレベルも上がらず、またリーグ全体のレベルも向上しない。 来シーズン以降も継続されるのであれば、少なくとも1週間以内でのリアクションを求めたい。</p>
<p>要望7</p>	<p>ご指摘ももっともでございます。申し訳ございませんでした。本年度は過密日程や同じ競技役員が連続して大会に参加するなど体制の不備がございました。来年度についてはHJL事務局及び競技運営部の体制を変更し、専属の担当者を配置することにより早期に回答ができるように努めます。</p>

<b>要望 8</b>	<p>・代表者会議でのルールに対するブリーフィングについて 今シーズン、インカレ及び全日本男子選手権においては、代表者会議の場にてルール解釈に対するブリーフィングが行われた。具体的には「上げられたボールに対して、落下地点にいるプレーヤーがボールをコントロールしたと見なされるタイミング」について言及があり、インカレではボールが地面に落ちた時点、全日本ではプレーヤーがレシーブした時点、と2大会にて差異があった。</p> <p>しかし、事前にこれらについて明確に説明されたことにより、チームとしては非常にやりやすく、それぞれの大会にて迷いなくプレーを行うことができた。実際の判定では微妙なものももちろんあったが、当チームにおいては選手が迷うこともなかったため、危険なプレーが誘発されることもなかった。今後もぜひ継続していただきたい。</p>
<b>要望 8</b>	<p>ありがとうございます。各大会のTD/UMによる部分もあるかと思いますが、競技運営部として明確化すべき点についてTD/UMに共有し、ブリーフィングにて伝えていく対応を今後も進めさせていただければと思います。</p>

<b>要望 9</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全日本選手権のレギュレーションについて 今年度より3位決定戦が導入された。その理由、背景についてチームとして何も説明を受けていないため、説明をお願いしたい。来年度以降も継続されるのか？</li></ul>
<b>要望 9</b>	<p>3位決定戦は、長年にわたり実施していましたが、男女同時開催といったスケジュールや大会運営上の理由や次につながらない試合でモチベーションがわかないといった理由からしばらく実施をしておりませんでした。</p> <p>一方で、日本トップレベルの試合を多く見たいという声もあり、最近はライブ配信の容易性や技術の向上もあり、できるだけ日本のホッケーファミリーのためにハイレベルな試合をお届けする機会を増やすという普及の観点も含め、3位決定戦を実施しています。今後も、する、みる、ささえるの環境の向上およびスケジュール、興行、大会運営などの諸条件を総合的に勘案し、前年度参加チームにヒアリングをする等の「する」方々の意向も踏まえて、決定して参りたいと思います。</p>

<b>要望10</b>	<p>・アンパイアの「アドバンテージ」の活用について</p> <p>近年、アドバンテージを取ってファールを流すケースが増えている。「アドバンテージ」の解釈について今一度、説明していただきたい。攻撃側のチーム・選手がボールを保持しており、プレーが継続できるのであれば「どんな状態であれ」流すケースが増えているように感じる。結果、攻撃側のプレイヤーは接触などの悪質なファールを受けているにも関わらずプレー継続を求められ、不利な体勢でのプレーを余儀なくされるばかりか、怪我を負うリスクも増している。</p> <p>アドバンテージとは「攻撃側にとって有利であること」だと私は捉えている。従って、何でもかんでも流すのではなく、ファールを取ってプレーを止めた方が攻撃側にとって望ましいのであれば、止めるべきだと考える。この点について見解をお聞きしたい。また仮にアドバンテージを取りプレーが流れたとしても、カードを適用すべきプレーに対しては、プレーが切れた時点にてきちんと対応をしてもらいたい。</p>
<b>要望10</b>	<p>ご指摘の通りです。アンパイアの技量による部分がございますが、ご指摘の内容を満足するようなアンパイアリングを指導してまいります。特にカードの適用については、事象の発生から時間がたっていたとしてもカードの提示を行うことについて特に指導してまいります。</p>

# フェアプレイで 日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



## 行動としての フェアプレイ

ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、  
全力を尽くす、勝っても驕らず、  
負けてもふてくされたりしないなど、  
行動に表れるフェアプレイのこと。



## フェアプレイ 精神

(フェアな心<魂>)

スポーツの場面に限らず日常生活の中でも、  
自分の考えや行動について善いことか悪いことかを  
自分の意志で決められること。  
自分自身に問いかけた時に、  
恥ずかしくない判断ができる心(魂)のこと。

公益社団法人 **日本ホッケー協会** 事業本部競技運営部  
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square  
TEL 03-6812-9200 FAX 03-6812-9210 <http://www.hockey.or.jp>